

長崎外国語大学 新長崎学研究センター所蔵

『長崎県千名鑑』

(九州日の出新聞社発行、1912年)

長崎県庁関係者・長崎市の部

翻刻 長崎の歴史・文化魅力発見プロジェクト

目次

• 目次	… 2～3	お	… 78～90
• はじめに	… 4	わ	… 91
• 翻刻の基本方針	… 5	か	… 92～105
• 『長崎県千名鑑』 翻刻データ	… 6～305	よ	… 106～110
• 長崎県庁関係者	… 9～19	た	… 111～140
• 自序	… 20	そ	… 141
• 凡例	… 21	つ	… 142
• 長崎市の部	… 22～303	な	… 143～160
い	… 22～39	ら	… 161
は	… 41～56	む	… 162～163
に	… 57	う	… 164～165
ほ	… 58～62	の	… 166～170
と	… 63～72	く	… 171～180
ち	… 73～76	や	… 181～192
り	… 77	ま	… 193～214

目次

ふ	… 215～222	国幣小社諏訪神社の景	… 40
こ	… 223～230	松添氏所蔵の狸の置物	… 65
え	… 231～233	鶴鳴実科高等女学校	… 66
て	… 234	実村写真館	… 67
あ	… 235～241	長崎製氷会社の新築工場	… 98
さ	… 242～254	阿久根医院	… 99
き	… 255～259	小林回漕店	… 100
ゆ	… 260	二枝鼈甲店の製品	… 113
み	… 261～265	八坂眼科病院の全景	… 132
し	… 266～281	油屋製飴工場	… 175
ひ	… 282～286	戸町玉蝉園	… 176
も	… 287～294	西中町天主堂	… 177
せ	… 295	十八銀行全景	… 196
す	… 296～301	北島婦人科医院	… 251
• 『長崎県千名鑑』 解題	… 304～305	長崎米穀取引所	… 276
		明治生命保険会社長崎支店	… 277
		諏訪神社踊馬場	… 302
		中川の桜	… 303

はじめに

- このデータは長崎外国語大学新長崎学研究センターが令和3年9月に購入した貴重資料『長崎県千名鑑』の原文を「G a i d a iプロジェクト」のプロジェクトチームの一つ「長崎の歴史・文化魅力発見プロジェクト」のメンバーが翻刻した成果物である。
- 令和4年度は長崎県庁関係者（11人）及び長崎市内在住者（264人）を対象として、9人のメンバーが翻刻及びデータ整理に従事した。
- メンバーが翻刻したデータについては藤本健太郎（国際コミュニケーション学科講師）が全文を校訂した。
- なお『長崎県千名鑑』については国立国会図書館デジタルコレクションに本文画像が掲載されている。
(<https://www.dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/921174>、令和4年8月1日閲覧)。こちらは本プロジェクトの成果物と比較すると画質が粗く、文字の判読に困難を要する部分が見られるものの、全体の構成を把握する上で有用であることから、あわせて参照されたい。

【令和4年度（春学期）プロジェクトメンバー】

岩本大成 兼平弥紅 高島眞桜○ 徳永萌々 チンイケツ


岩男亮汰 川口哉美 高倉瞬星 伊福 敬

（順不同、○はリーダー）

翻刻の基本方針

3	2	1
6	5	4

掲載位置は原文の配列方法に準じて、顔写真及び略歴の配置場所に右図のとおり1～6までの番号を割り振った上で「2頁 - 2」などと表した



掲載位置…2頁・2
 人名原文表記…稲枝俊太郎

稲枝俊太郎氏
 (長崎市馬町)

氏は石川県金沢市の人にして明治二十二年東京高等師範学校初等中学師範学科を卒業し山形県東京府大阪府福島県各師範学校等を歴任し明治四十二年八月長崎県女子師範学校長となる

原文に旧字体が用いられている場合、人物名に限り旧字体を併記した

顔写真

人物名

略歴

居住地

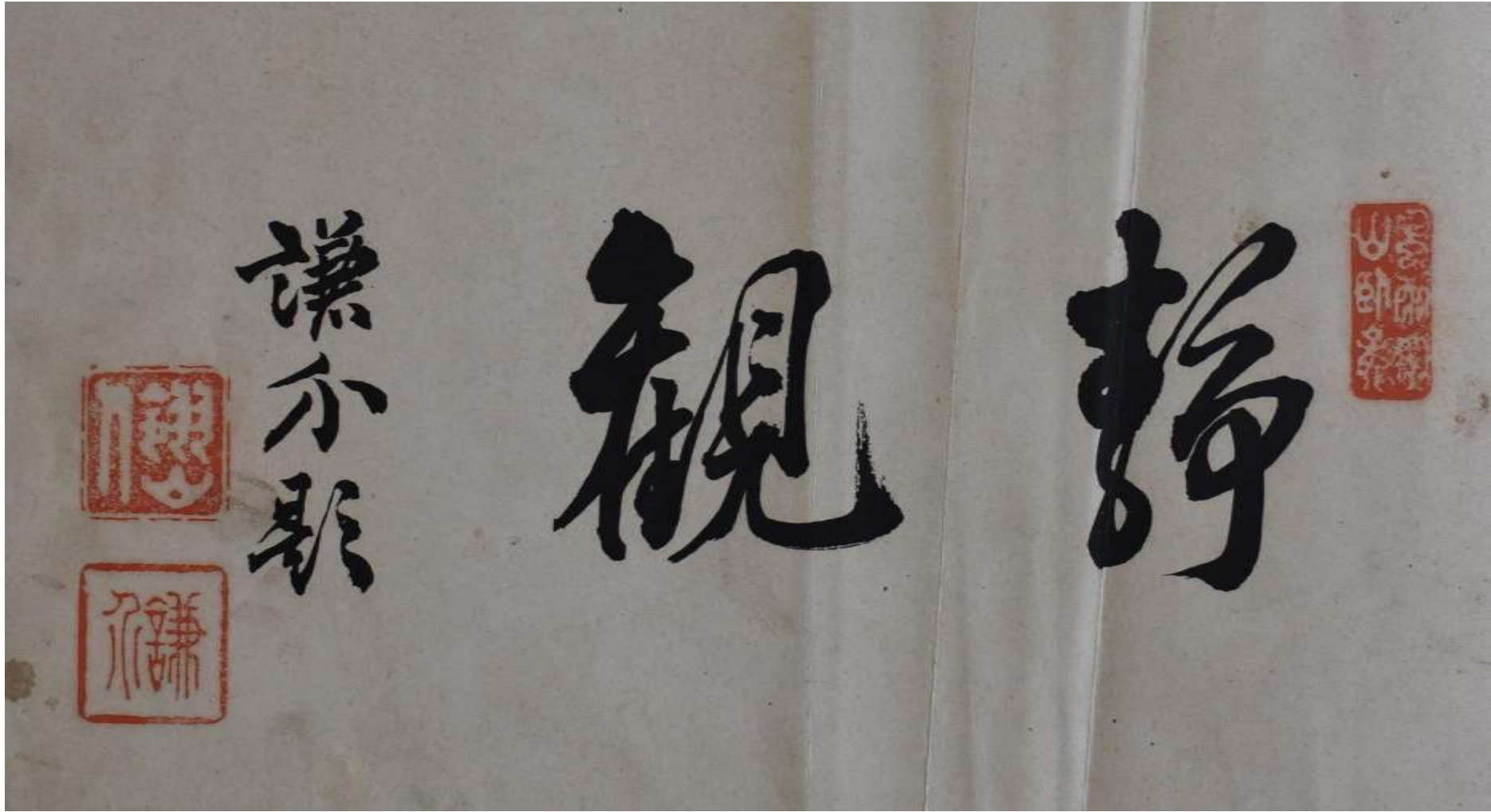
※文字表記については人名を除き、原則として現代仮名遣いを用いた

参考例：「稻」→「稲」

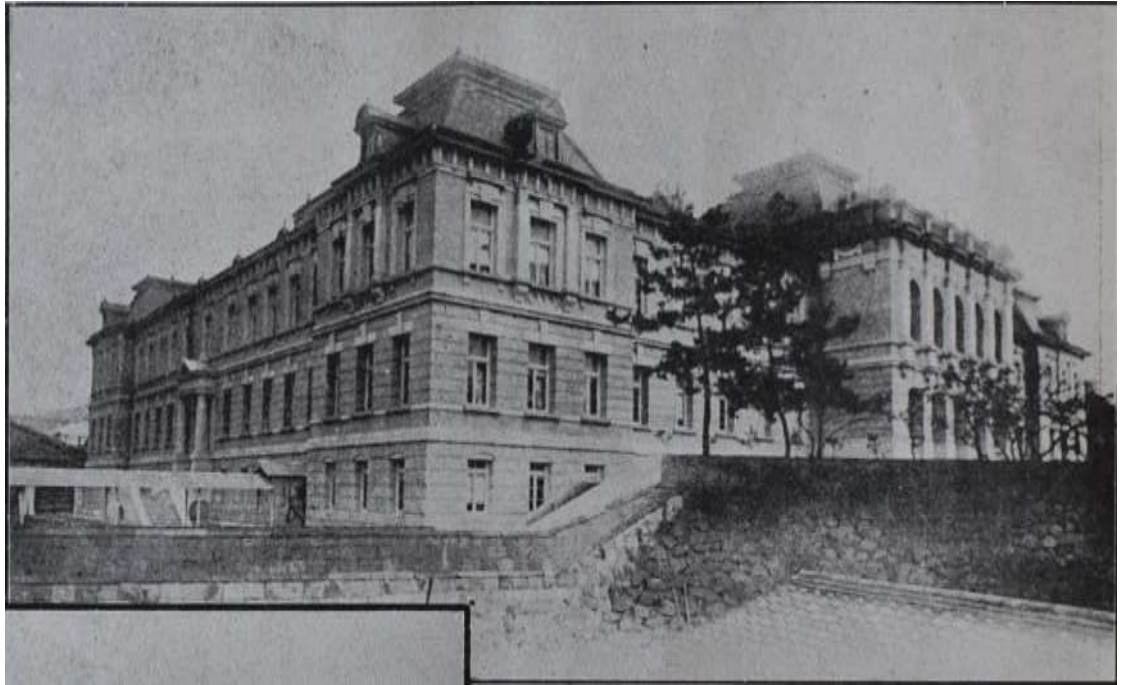
※句読点及漢数字も原文のまま表記した
 ※フォントは全て游ゴシック体で統一した

以下『長崎県千名鑑』翻刻データ

謙介題



観 静
(静観)



安藤知事

掲載位置・長崎県庁1頁、2
人名別表記・安藤謙介



荒川前知事

掲載位置・長崎県庁1頁、4
人名別表記・荒川義太郎



犬塚前知事

掲載位置・長崎県庁1頁、6
人名別表記・犬塚勝太郎



岡田内務部長

掲載位置・・長崎県庁2頁・1



秦前内務部長

掲載位置・長崎県庁2頁・2



手塚警察部長

掲載位置・長崎県庁2頁・3
人名原文表記・手塚警察部長



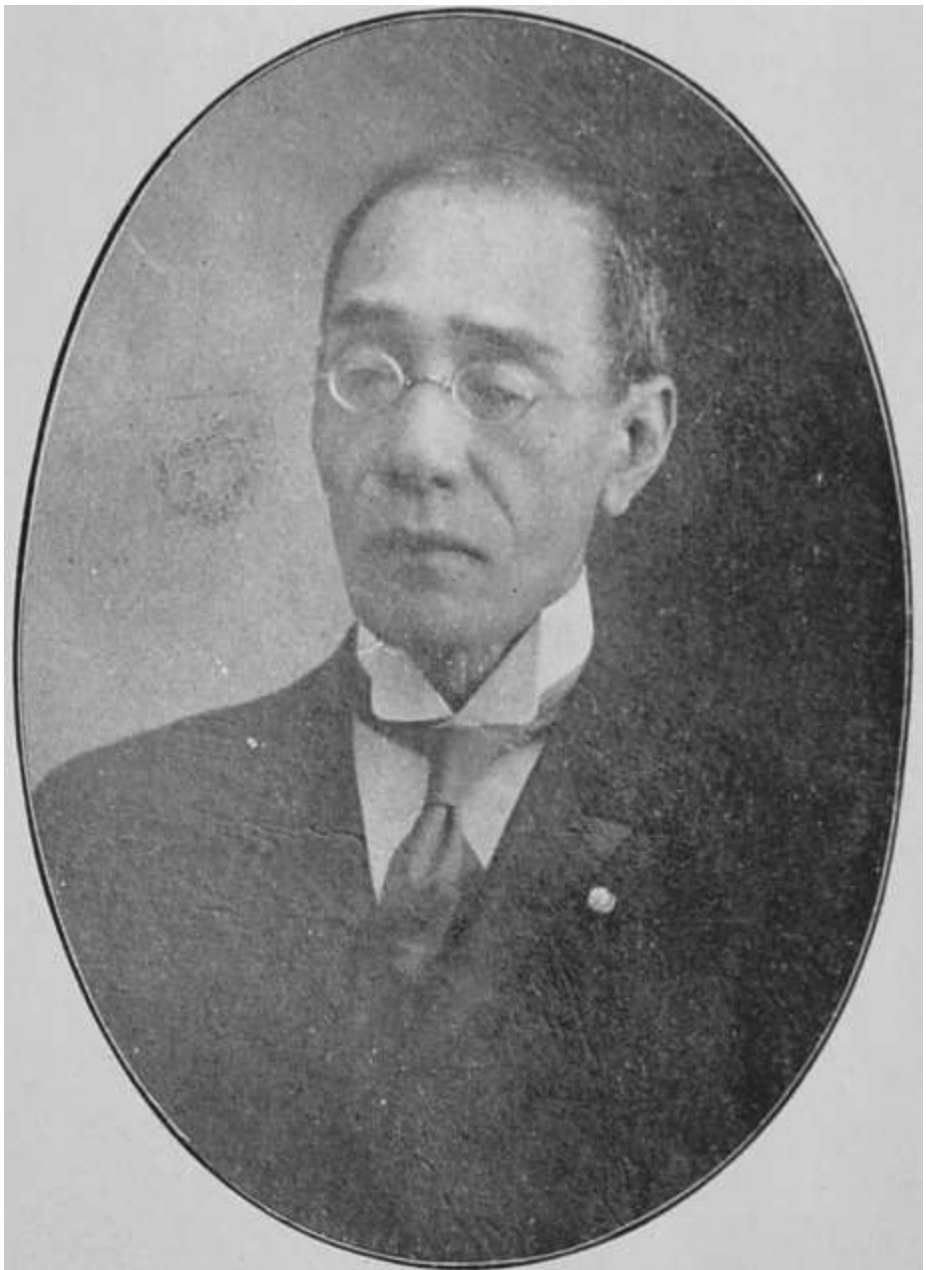
井手事務官

掲載位置・長崎県庁2頁・4



野口事務官

掲載位置・・長崎県庁3頁・1



竹井港務部長

掲載位置・長崎県庁3頁・2



鈴木技師

掲載位置・・長崎県庁3頁・3



山田技師

掲載位置・・長崎県庁3頁・4



自序

昨年五月長崎県庁舎の新築落成式を挙行せらるるや我等は此盛事を有効に記念せんには県下各方面の人物写真を蒐集し之れを一冊の書籍に編纂して永久に伝ふるを以て最善の方法なりと思考したりき爾來直ちに其準備に着手し県内各地を歴巡して先づ写真を集め写真の現存せざるものに対しては写真師を派遣し或は団体写真を涉猟して其内より複写する等此間一年有余の日月を費して漸く八百有余を得たり而も材料蒐集の困難独り之れに止まらず全く意想外にして編者の苦心惨憺は実に名状すべからざるものあり遂に重要なる写真百有余は本書印行の間に合はず他日増補訂正を待ちて挿入するの已むを得ざるに至れるは編者の甚だ遺憾とする所又団体写真より複写せるものありては其多くは鮮明を欠ぎ姿勢亦た整はず誠に写真主に対して恐縮に堪へざるもの少からず是等は諸君の宏量編者の苦心の存する所を諒し偏に寛恕せられんことを切望して已まず

顧みれば地方自治制施かれて茲に約三十年自治団体は恰も而立の齡に達す此間我県民亦た健全なる発達を遂げ工費五十万円を投じて彼れが新冠たる県庁舎の造営を為し、以て威儀を整へたり我等は此意味に於て此盛事に対して衷心の喜悦を禁ずる能はざると共に不肖能く本書の編纂に当り得たるを無上の光栄となすものなり

大正元年十月

編者識

凡例

- 一、本書は長崎市、佐世保市、西彼杵郡、東彼杵郡、北高来郡、南高来郡、北松浦郡、南松浦郡、壱岐郡、対馬の順を以て人物及風景の写真を挿入す
- 一、人物の写真は郡市別とし更に之れをイロハ順にて配列す
- 一、各人の経歴説明は紙数の都合上簡略を旨とし唯概念を与ふるに止め写真順により左図の如く配列す

真 写				明 説		
三	二	一	—	三	二	一
六	五	四	—	六	五	四

- 一、景色建築物等の説明配置も総て人物写真の説明と同一順序による

家永芳彦氏

(長崎市酒屋町)

佐賀県出身長崎市に於て最も早く開業したる弁護士なり各種の名誉職に挙げられ長崎市より衆議院議員に選出せられたること前後二回長崎県に於ける政界の先達として勢力あり最近再び長崎市会議員に当選し其議長に挙げらる

掲載位置…1頁、1



磯貝泰助氏

(長崎市夫婦川)

氏は長野県上水内郡信濃尻村の人明治三十二年三月東京高等師範学校理科卒業夫より宮崎県師範学校教諭となり三十三年四月東京高師研究科に入学三十四年卒業同年山形県師範、広島県師範の各学校教頭を経て明治四十年六月本県師範学校長に転ぜり

掲載位置…1頁、2

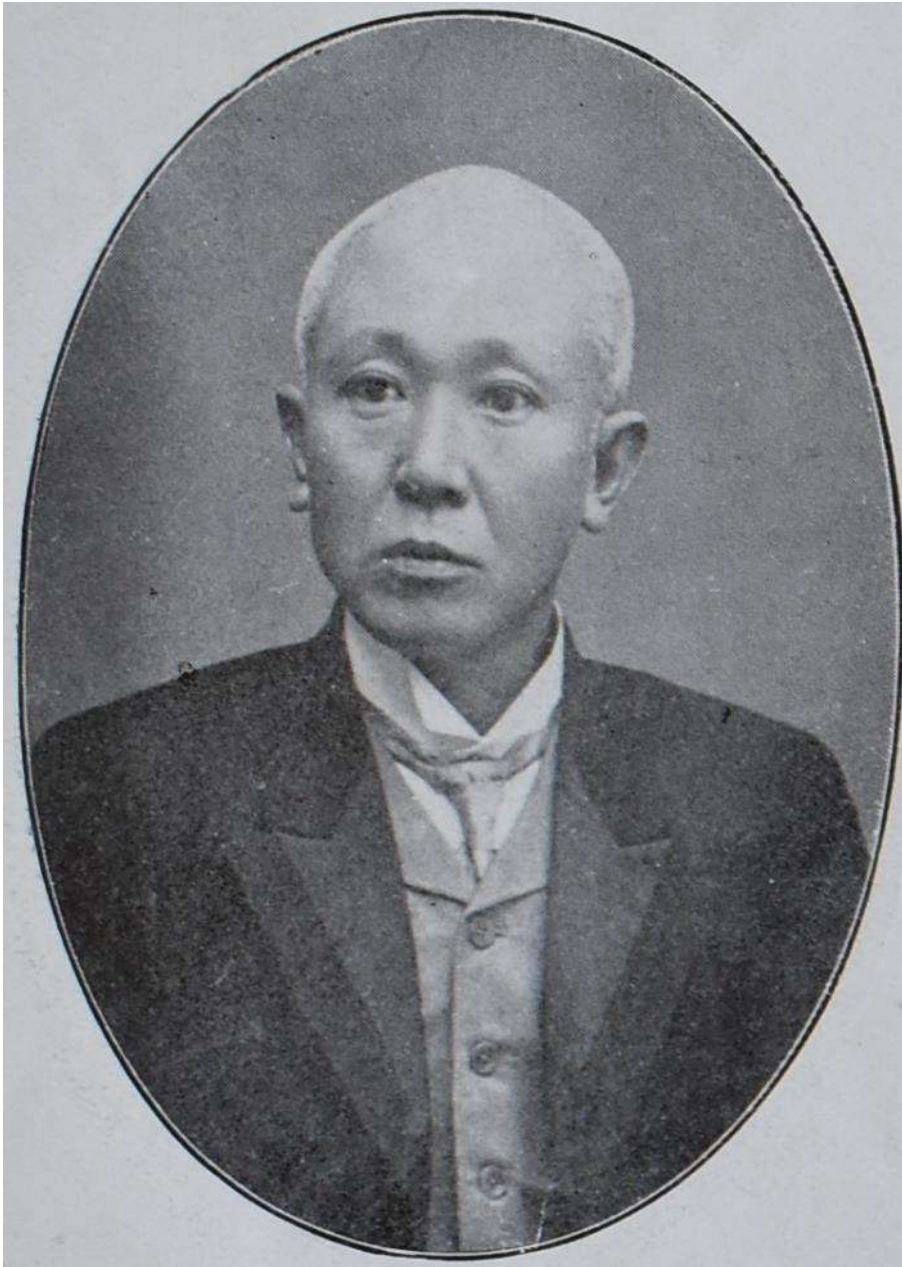


井上英雄氏

(長崎市東浜町)

明治十年以来舶来雜貨商を営む、明治二十八年より今日迄引続市会議員となり、三十八年県会議員に挙られて県参事会員となり其後毎期の改選に挙られて今尚県会議員にして県参事会員たり、島原水力電気株式会社取締役等会社方面にも関係あり

掲載位置… 1頁、3



伊東祐順氏

(長崎市稲佐)

最も早く稲佐に医術を開業し郷民の信賴頗る厚し又土地の公共的事業に尽力すること多年極めて徳望あり

掲載位置…1頁・4



井上智三郎氏

(長崎市榎津町)

明治三十一年第五高等学校卒業以来明治三十六年迄県立長崎病院内科に奉職し辞して翌三十七年内科専門医として開業せり

掲載位置… 1頁、5



稲松元治郎氏

(長崎市本五島町)

氏は荷受問屋、貿易商等を営み明治四十四年長崎商業会議所議員に挙げらる

掲載位置…1頁、6

人名原文表記…稲松元治郎



石橋友吉氏

(長崎市今町)

法科大学出身の法学士文才に富み石橋忍月の名一時文壇を風靡せり後司直の府に職を奉じ長崎地方裁判所判事に転任するや間もなく野に下りて弁護士を開業し以て今日に及べり

掲載位置…2頁、1



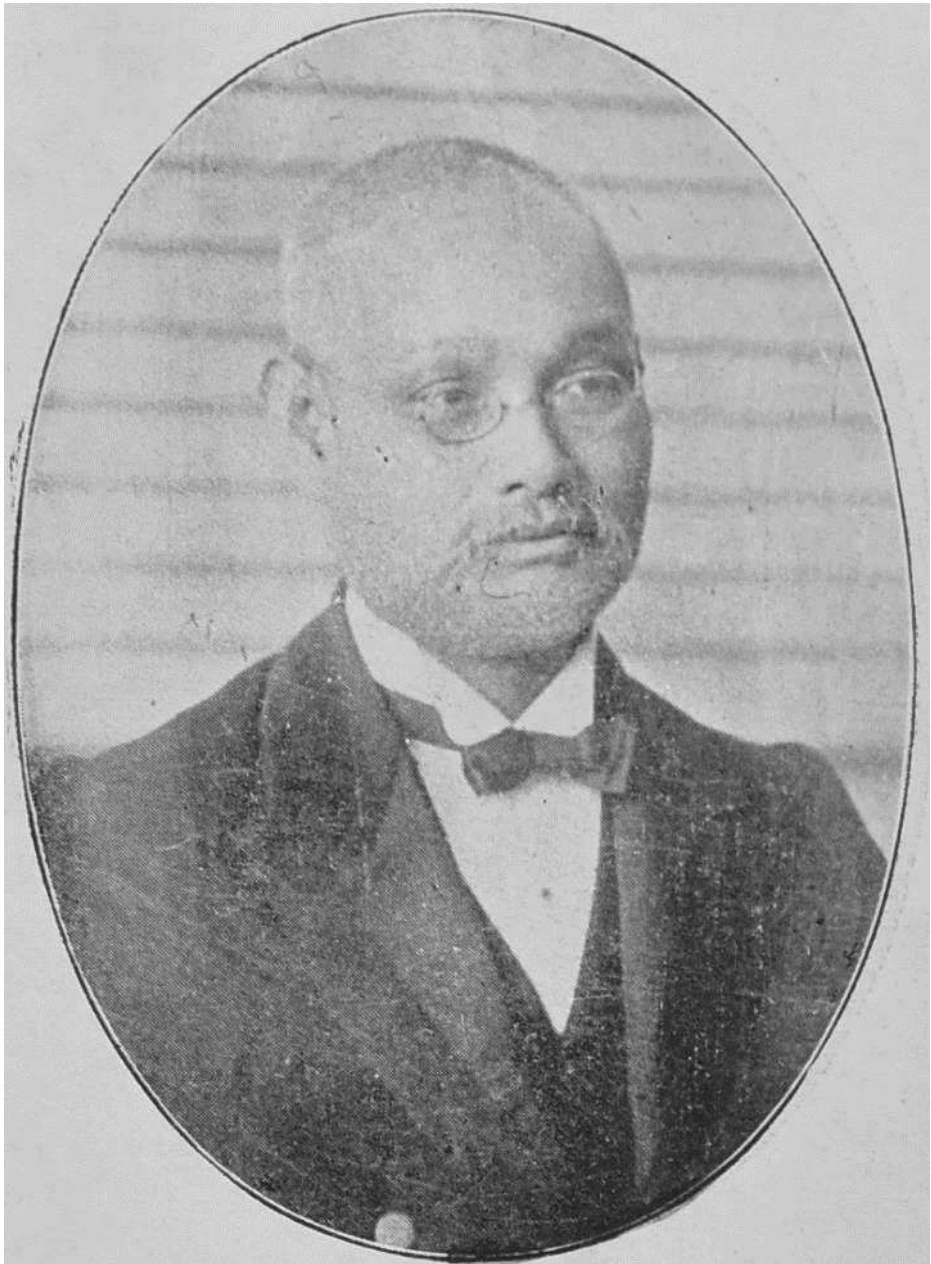
稲枝俊太郎氏

(長崎市馬町)

氏は石川県金沢市の人にして明治二十二年東京高等師範学校初等中学師範学科を卒業し山形県東京府大阪府福島県各師範学校等を歴任し明治四十二年八月長崎県女子師範学校長となる

掲載位置…2頁、2

人名原文表記…稲枝俊太郎



入江米吉氏

(長崎市西浜町)

貿易商、海陸物産委託販売、白米輸出販売等
等を業とし開業十有五年に達す、常に長崎
商業会議所議員に挙がる

掲載位置…2頁、3



石野寛平氏

(長崎市大浦)

氏は北松浦郡の人、明治五年長崎区長となり次て佐賀県、福岡県等に奉職し明治十八年筑豊五郡礦業組合総長、若松築港会社長となり明治二十九年辞職爾来実業に従事す

掲載位置…2頁、4

人名原文表記…石野寛平



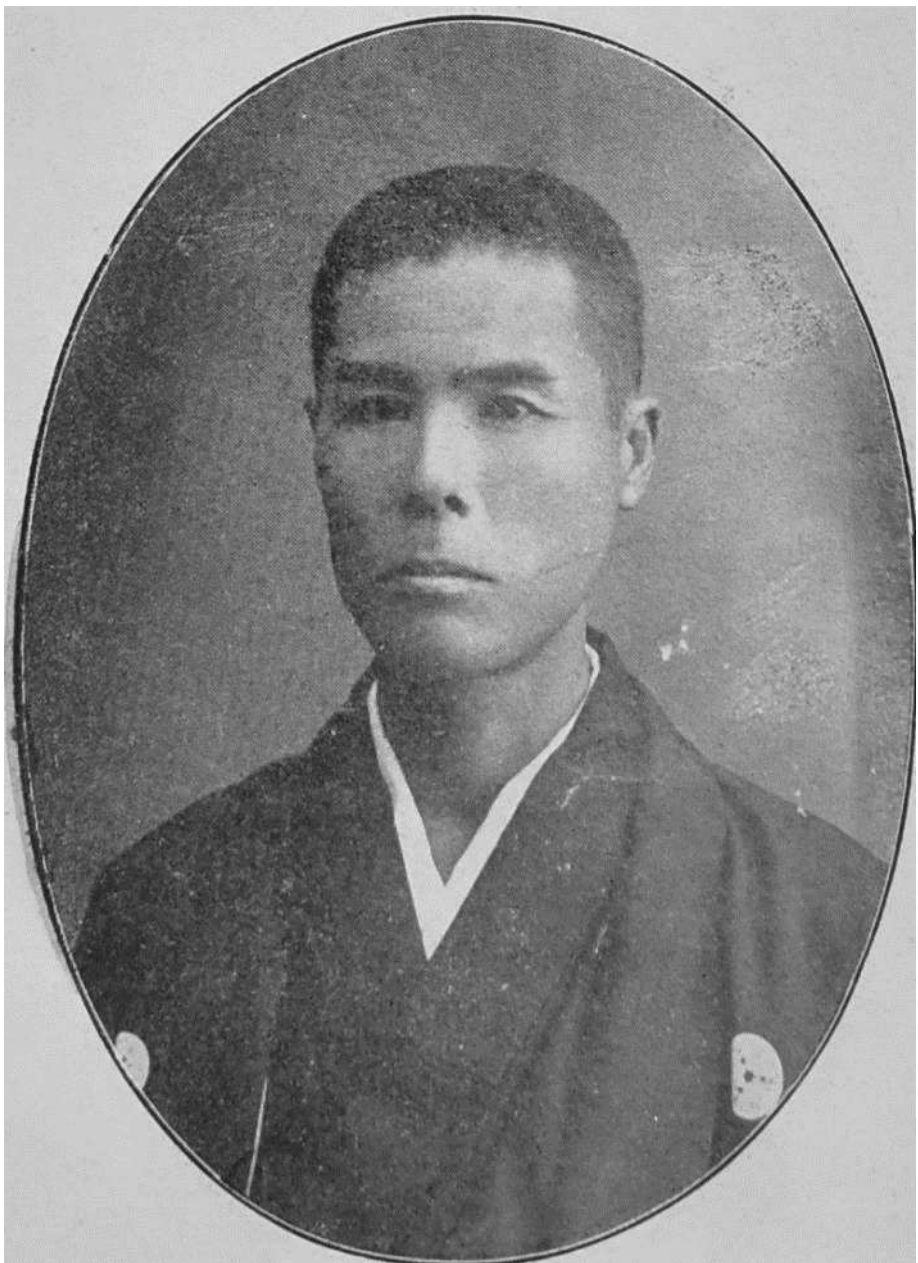
磯部六蔵氏

(長崎市浦五島町)

多年長崎市に於て木材商を営み、又外国産
木材の輸入をなし事業愈よ隆昌なり

掲載位置…2頁、5

人名原文表記…磯部六蔵



井川登氏

(長崎市古河町)

明治三十五年長崎医学専門学校出身の医師
明治四十四年三月より長崎市古河町に医術
を開業せり

掲載位置…2頁・6



池辺栄次郎氏

(長崎市大浦)

明治十九年県立長崎甲種医学校を卒業後県立長崎病院に奉職して外国人医務取扱を命ぜられ其後海港検疫医官奉職従六位に叙せらる明治二十八年以来大浦に医院を開業して現在に及べり

掲載位置…3頁、1

人名原文表記…池邊栄次郎



池田勘次郎氏

(長崎市梅ヶ崎町)

久しく長崎市に於て獣肉販売業を営み私設屠場会社を創立して之が社長となり又牛肉販売業組合の組長たりしことあり明治四十三年三月長崎市会議員に挙げらる

掲載位置…3頁、2



池島正造氏

(長崎市麴屋町)

累世書画、骨董商を営む氏は其三代目なり、
鑑識に富み現に長崎市古物商組合取締たり

掲載位置…3頁、3

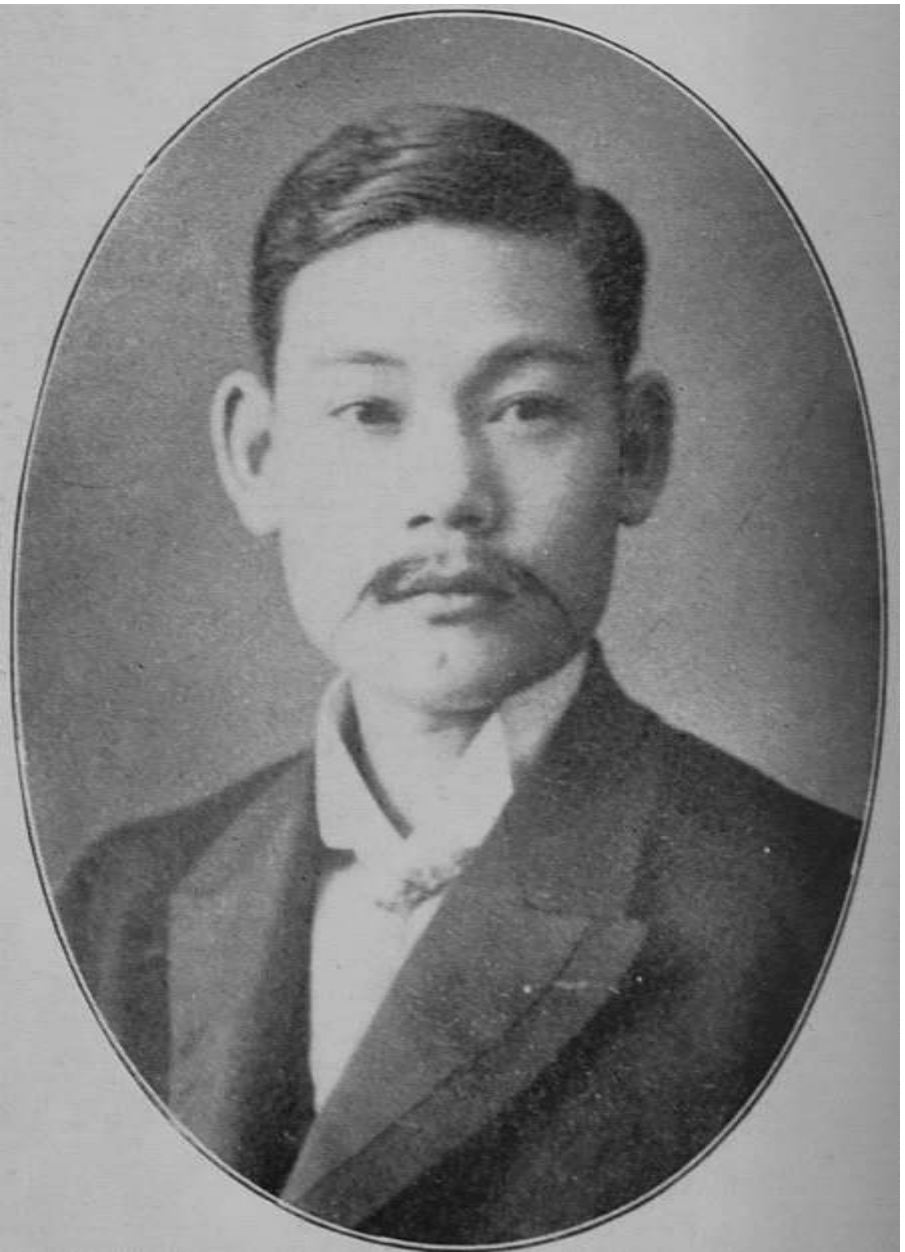


板坂定氏

(長崎市江戸町)

明治三十三年長崎医学専門学校卒業同時に
県立長崎病院外科部に聘せられ、勤続十余
年、同四十三年四月辞し現在の場所に外科
専門の医院を開く

掲載位置・・3頁・4



飯田米吉氏

(長崎市材木町)

長崎市立商業学校卒業後志願兵として入営し現に予備将校たり、爾来主として実業に従事す

掲載位置…3頁、5

人名原文表記…飯田米吉



岩崎増次郎氏

(長崎市樺島町)

久しく外国貿易荷受問屋を営み長崎市に於ける正米界の驍將たり

掲載位置…3頁、6

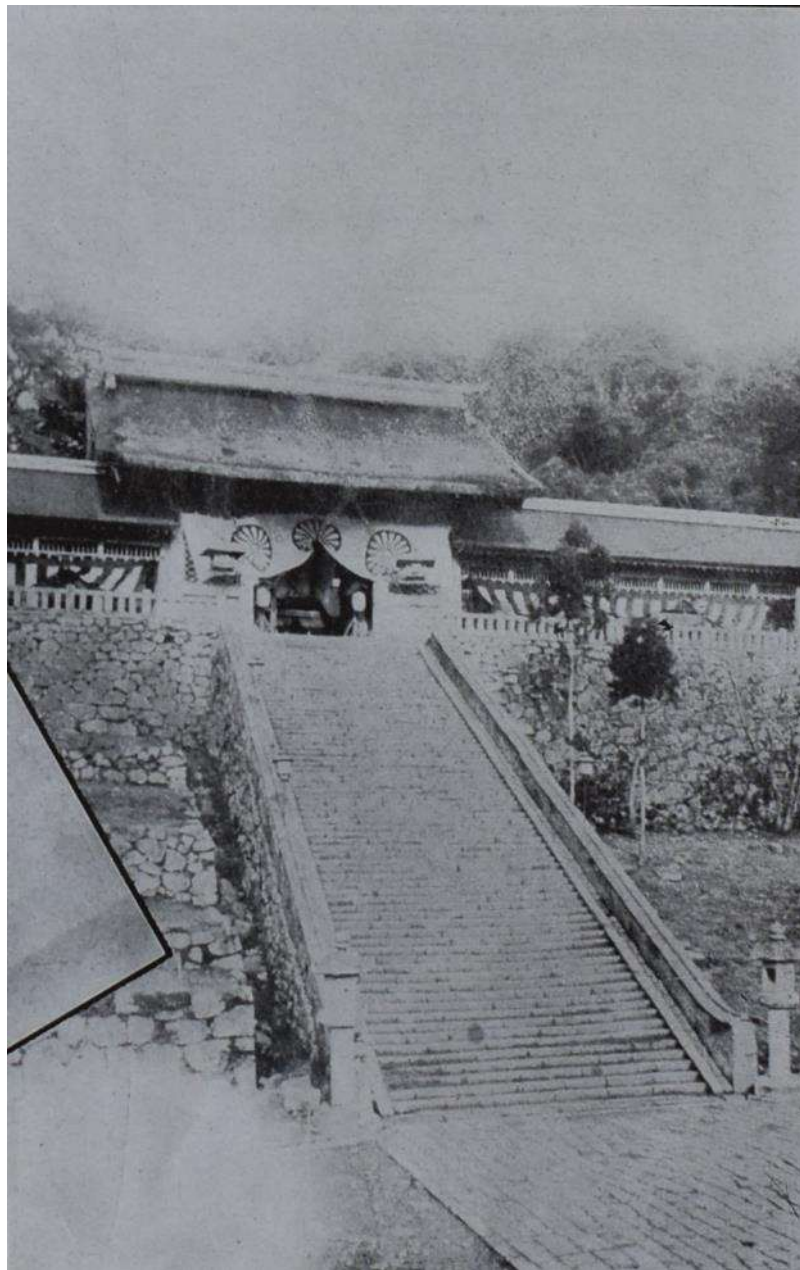
人名原文表記…岩崎増次郎



国幣小社諏訪神社の景

長崎市西山に在り右は境内の長坂にして左
は拝殿なり

掲載位置…4頁



橋本雄造氏

(長崎市外浦町)

氏は大分県中津の人長崎市に出でて洋鉄、船具商を営み大に成功し長崎商業会議所議員、市会、県会、衆議院、貴族院議員等に挙げらる、今は家業を息辰二郎氏に譲り外浦町に閑居す長崎市屈指の資産家にして徳望家たり

掲載位置…5頁、1



原真一氏

(長崎市築町)

南松浦郡出身捕鯨事業に成功して巨富を得、
後合併して東洋捕鯨会社の組織せらるるや
発起人として重役に挙げられ又別に独立し
て漁業に従事し着々成功しつつあり

掲載位置…5頁、2

人名原文表記…原真一



原鶴次郎氏

(長崎市下筑後町)

筑後柳川の人、明治三十三年年帝大政治科の出身翌三十四年大蔵省より経済調査の爲め米国に派遣され在留三ヶ年帰朝後三十七年一月大阪専売支局に転任満三ヶ年在勤の後更に本省専売局参事に任ぜられ次で四十四年長崎税関長となる

掲載位置・・5頁、3



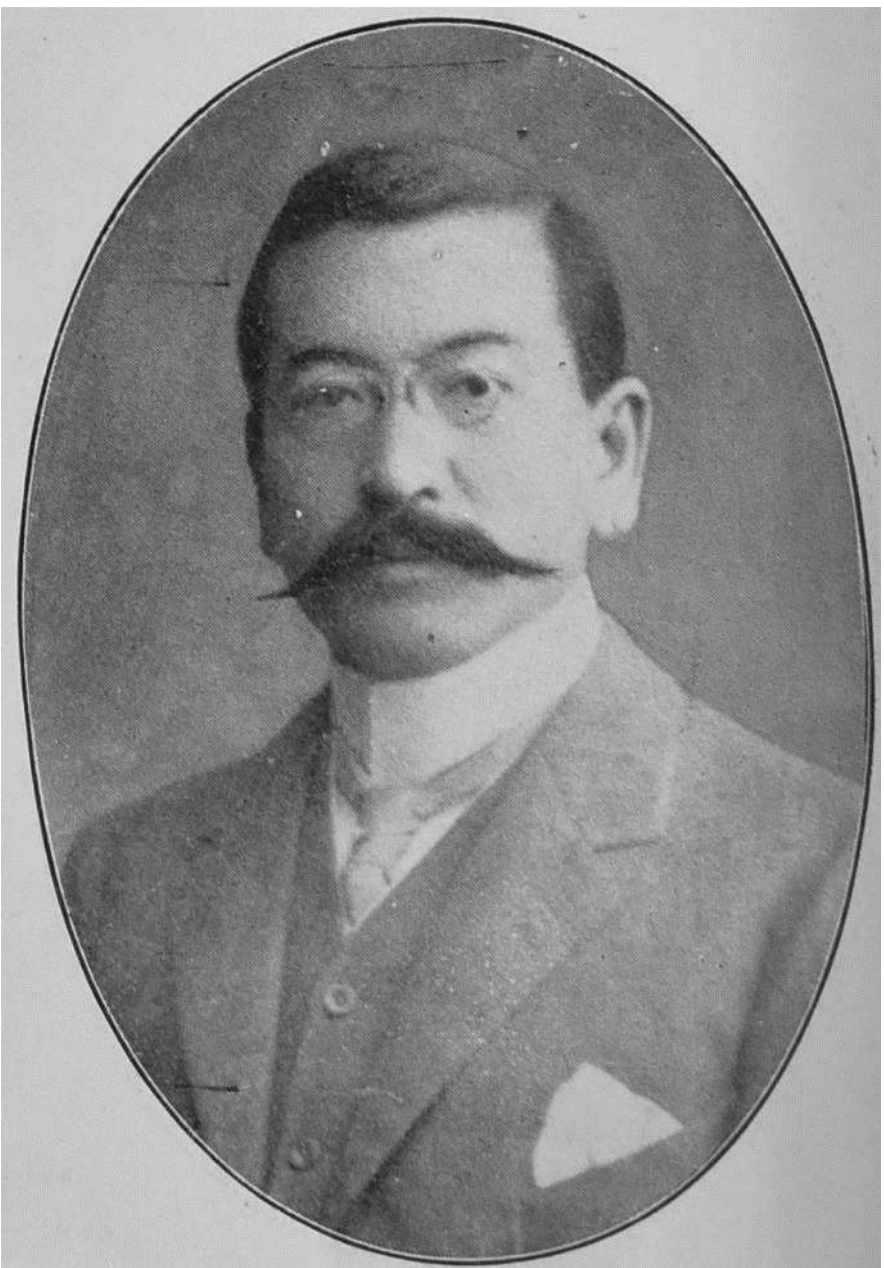
橋本清敏氏

(長崎市本紙屋町)

長崎医学専門学校を卒業して一時警視庁に奉職せることあり近時医業を廃して政界に貢献せんとする意あり昨年長崎市より県会議員に選出さるる国家衛生問題は氏が最も留意する所なり

掲載位置…5頁、4

人名原文表記…橋本清敏



原万里氏

(長崎市材木町)

長崎市材木町に宏大なる眼科医院を開業し
長崎市に於ける有数の眼科医師たり

掲載位置…5頁、5

人名原文表記…原萬里



服部慶太郎氏

(長崎市東浜町)

氏は早稲田大学出身、明治三十三年佐賀商業会議所に入り、三十七年転じて佐賀米穀取引所商務課長に任じ次で四十一年博多米穀取引所理事となり翌四十二年長崎米穀取引所に入り今尚理事として勤続せり

掲載位置…5頁、6



橋本辰二郎氏

(長崎県油屋町)

東京専修学校に於て経済法律を修め、後実業に従事して大に成功し、長崎商業会議所会頭、長崎市会議員等に挙げらる

掲載位置…6頁、1



馬場卓一氏

(長崎市小川町)

明治二十七年北方炭坑に入り現に松島炭坑
販売部長として敏腕の称あり

掲載位置…6頁、2

人名原文表記…馬場卓一



蜂谷健吉氏

(長崎市西山)

氏は長野県西筑摩郡神坂村の人、明治三十二年三月東京高等師範学校専修科卒業夫より福井大阪の各師範学校を経て四十五年一月本県女子師範学校教頭に転ず

掲載位置…6頁、3



林正胤氏

(長崎市稲屋町)

東京高等商業学校出身、明治四十一年年長
崎商業会議所書記長に任ぜられ引続き今日
に在り

掲載位置…6頁、4



原田豊一氏

(長崎市寺町)

氏は長崎市に於ける鎮西日報東洋日の出新聞記者として多年操觚界に在りて文名あり後教育界に身を投じ現に私立長崎県鶴鳴実科高等女学校長たり

掲載位置…6頁、5

人名別表記…原田豊一

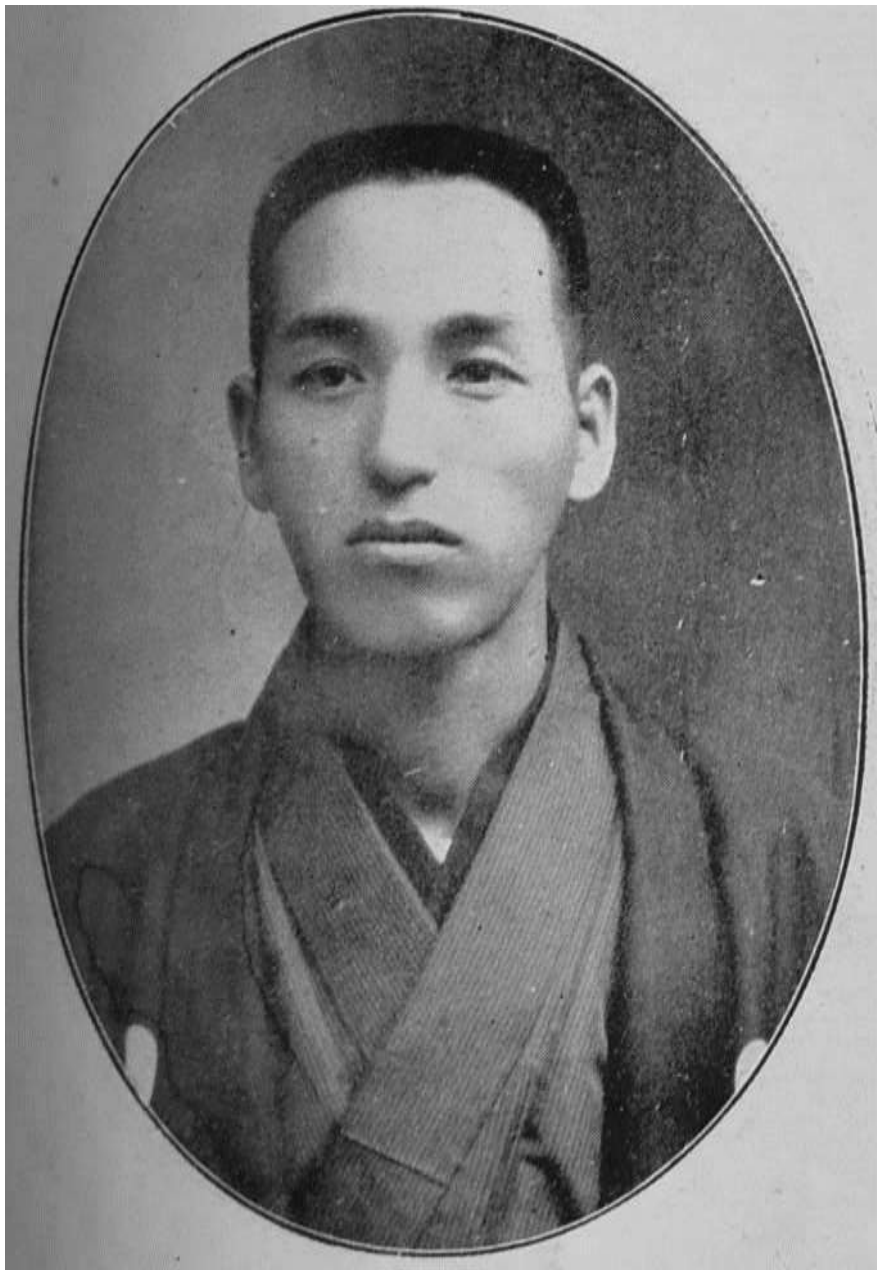


林田庄吉氏

(長崎市酒屋町)

南高来郡千々石村の出身永く医療器械の販売に従事し明治三十年以来事業益々盛大となり数年前より長崎市酒屋町に一大店舗を構へ広く医療器械を販売す

掲載位置…6頁、6



橋本清氏

(長崎市外浦町)

屈指の資産家なり早くより請負業を営み
着々成功して巨富を成すも老いて益々壮に
して常に事業の発展を図りつつあり

掲載位置…7頁、1

人名原文表記…橋本清



林榮三氏

(長崎市引地町)

山口県の人、去る明治三十年より長崎地方
裁判所判事たり三十六年十一月退官するや
同時に弁護士となり以て今日に至る

掲載位置・7頁・2

人名原文表記・林榮三



浜付重四郎氏

(長崎市恵比須町)

氏は熊本県天草郡富津村に生れ明治三十二年六月長崎局通信事務員となり四十年五月通信属に進み四十一年三月退官四十一年三月十八日大黒町郵便局長拝命現時に至る

掲載位置…7頁、3

人名原文表記…濱付重四郎



林長十郎氏

(長崎市立神)

明治四十三年一月立神郵便局長拝命引続き
其職に在り

掲載位置…7頁、4



西村謙三氏

(長崎市本紙屋町)

現県立長崎中学校校長たる氏は東京帝国大学
文科大学哲学科に学び家事上の都合に依り
半途退学二十年七月中等教員免許状を授与
せらる同時に佐賀中学校に奉職せしが翌年
十月辞職其後大分豊津、福井鹿島、修獻
(猷カ)館等各中学の教頭及校長を経て四
十四年九月現職に転ず

掲載位置…7頁、5



本田保男氏

(長崎市船大工町)

氏は明治四十年五月十九日船大工町郵便局長に任命され又北清事件日露戦役等に参加し勲功あり

掲載位置…7頁、6



本田恒之氏

(長崎市本博多町)

県下島原の人、明治十九年東京専修学校を卒へ金沢専門学校法政経済の講師に聘せられ、後ち再び東都に出で次で長崎に來りて弁護士となり明治三十六年より県會議員たる事三期四十年市會議員となり四十五年衆議院議員に當選す

掲載位置・・8頁、1



帆足隼太郎氏

(長崎市内中町)

南高来郡出身夙に政界に馳驅して衆議院議員に挙げられ又長崎県会に議長として盛名あり近時政界を退きて実業界に投じ農工銀行頭取たりしが明治四十五年五月再び衆議院議員に当選せり

掲載位置… 8頁、2



星野助太郎氏

(長崎市浪ノ平町)

久しく現在の場所に於て医術を開業し患者の信用頗る厚し又郷党に愛重せられて長崎市会議員に選挙され公共事業に尽瘁せるもの多く声望あり

掲載位置・・8頁・3



本田直次郎氏

(長崎市稲佐郷)

氏は稲佐郷に於ける資産家にして明治三十三年三月稲佐郵便局長を拝命せり性温厚にして青年会を組織し夜学校を興す等青年の教育風紀の改善に尽瘁する所尠からず

掲載位置・・8頁・4



殿村為三郎氏

(長崎市船大工町)

有名なる菓子店福砂屋の主人なり福砂屋の
カステーラは日本の元祖と称せらる氏は温
厚篤実にして信用ある実業家なり

掲載位置・8頁・5

人名原文表記・殿村為三郎



富永徳次郎氏

(長崎市本石灰町)

氏は主として貸家業を営み有数の資産家なり

掲載位置…8頁、6

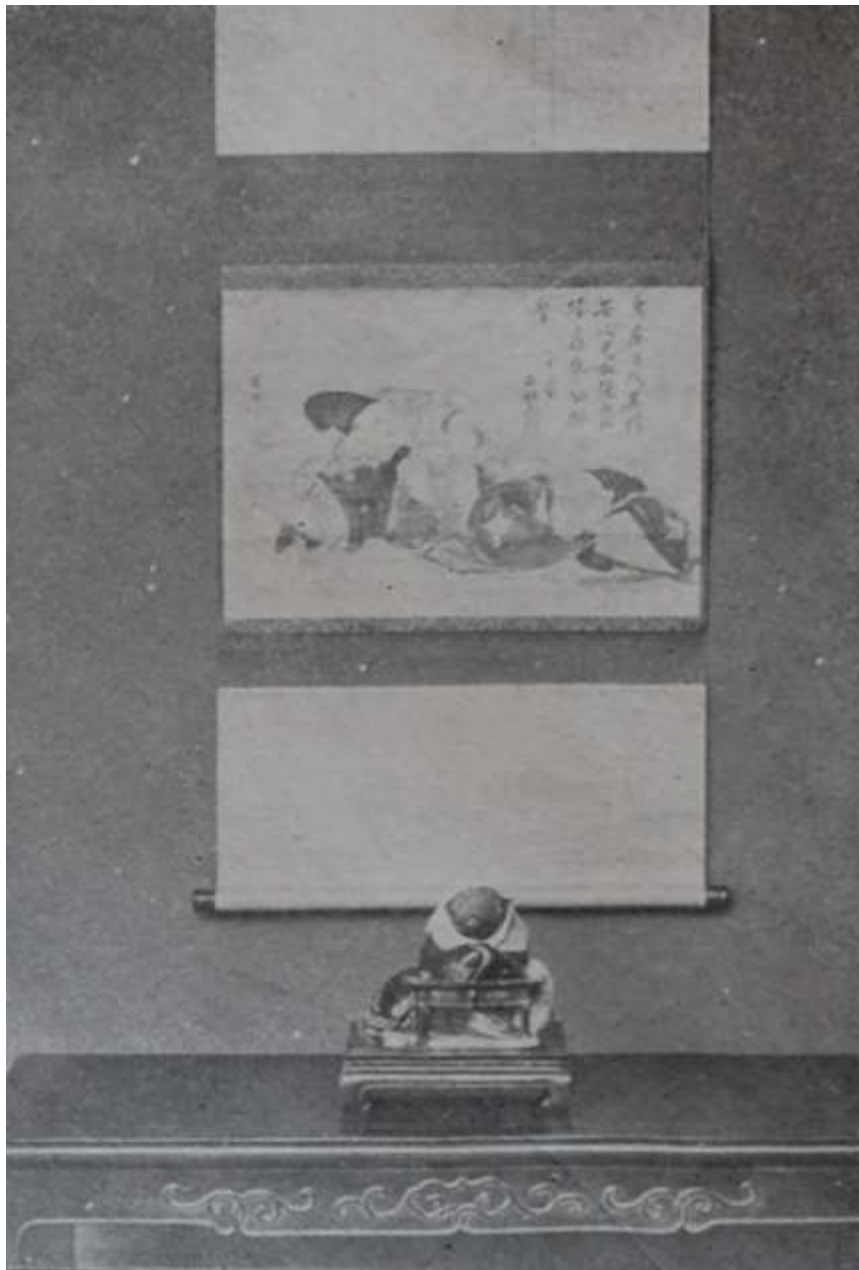
人名原文表記…富永徳次郎



松添氏所蔵の狸の置物

長崎市万才町齒科松添氏は極めて多趣味の人にして殊に古器物を愛玩す其所蔵にかか
る狸の置物は古色蒼然稀代の珍品たり

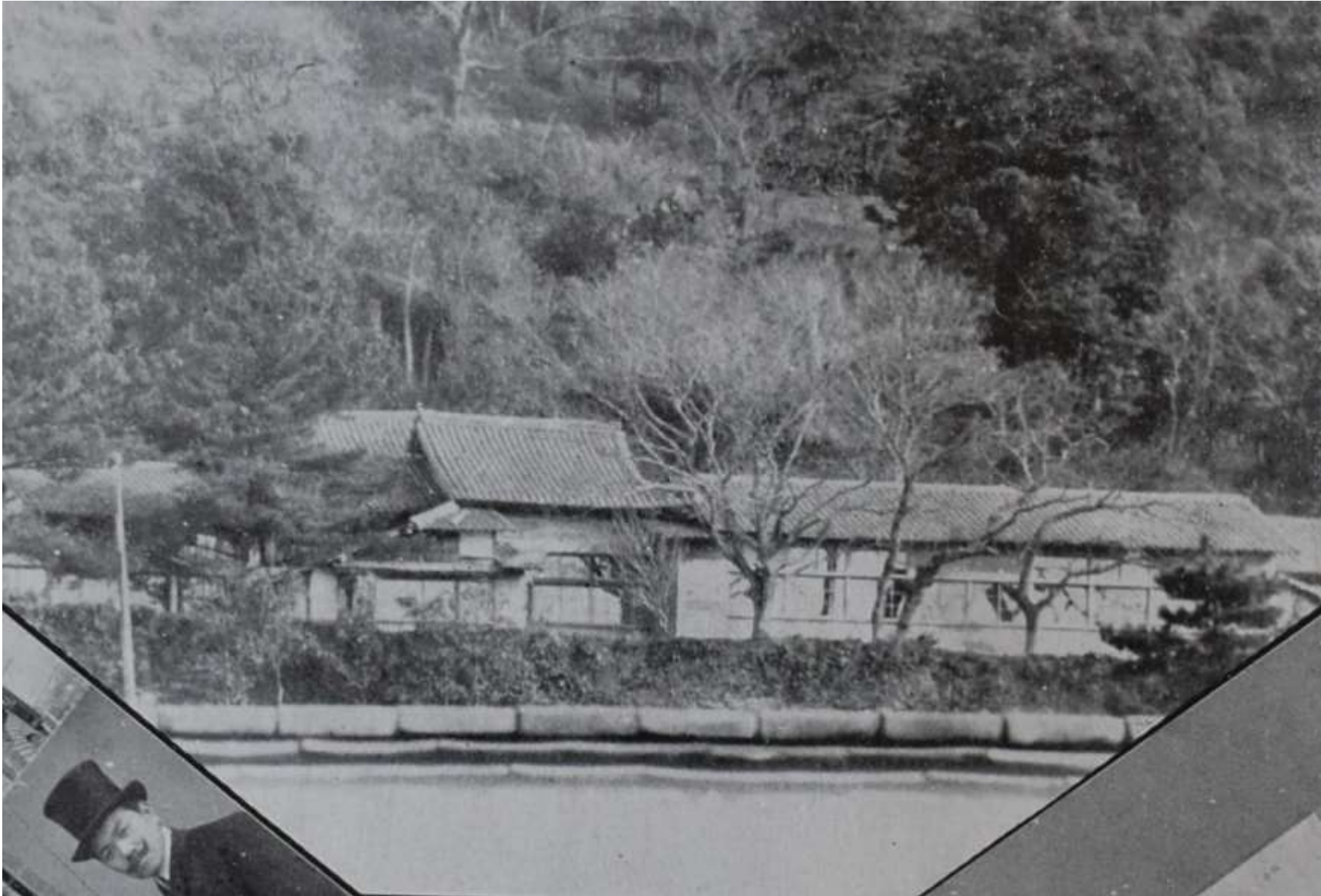
掲載位置・・9頁・1



鶴鳴実科高等女学校

長崎市伊良林に在り

掲載位置・・9頁・2



実村写真館

長崎市本古川町に在り館主実村実氏

掲載位置…9頁、3
人名原文表記…實村實



豊村猶七氏

(長崎市小川町)

多年西彼杵郡に村長として盛名あり先年長
崎県農工銀行の常務取締役に挙げられて以
来専心銀行経営に従事し功績あり資性温厚
長者の風あり

掲載位置…10頁、1

人名原文表記…豊村猶七



豊藤篤郎氏

(長崎市馬場郷)

氏は徳島市東富田大字富田浦町の人明治三十六年三月東京高等師範学校第四部卒業同年四月広島県師範学校の教諭兼訓導となり四十二年四月同県三原女子師範教諭兼務同年七月本県師範学校教頭に任命せられたり

掲載位置…10頁、2



徳島徳三氏

(長崎市浦五島町)

貿易商、荷受問屋にして開業既に八十余年に達す、氏は長崎木材倉庫株式会社の創立さるるや推されて社長となり嘗ては長崎商業会議所議員たり

掲載位置…10頁、3

人名原文表記…徳島徳三



富野繁一氏

(朝鮮仁川)

米国に在る事多年帰朝後四十年韓国仁川に
渡り秋田商会の支配人となり今尚同地にあ
り

掲載位置…10頁・4



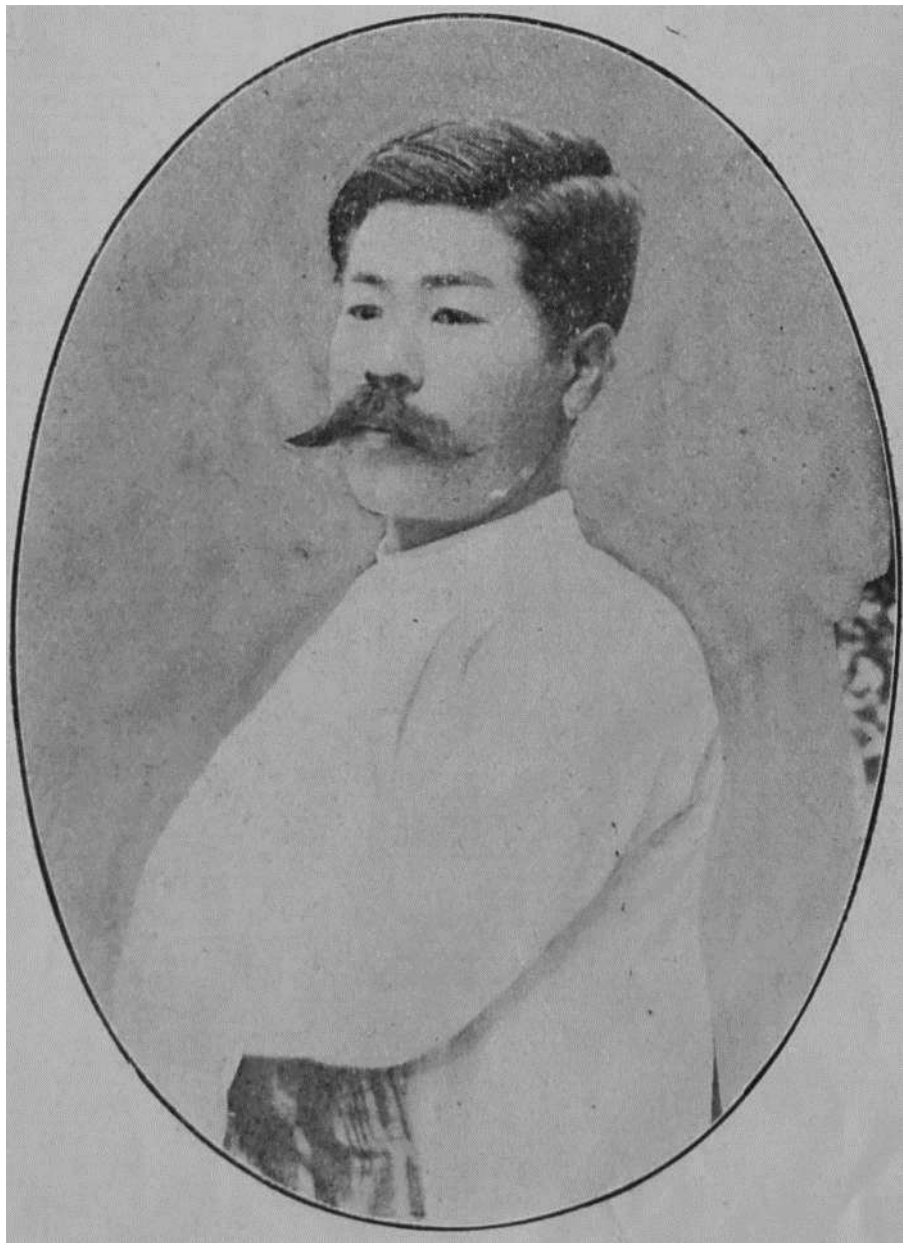
徳臣太善氏

(長崎市今鍛冶屋町)

第五高等学校医学部出身の医師一時軍職に在りて予備陸軍二等軍医たり又芳谷炭鉱病院長県立長崎病院外科副部長等を奉職し明治四十五年七月辞して今鍛冶屋町に開業す

掲載位置…10頁、5

人名原文表記…徳臣太善



千々石研太氏

(長崎市飽ノ浦)

氏は佐賀市材木町の人明治三十一年十月内務省医術開業試験に合格夫より長崎市に來りて前記の肩書地に開業し又県立長崎娼妓病院副院長たり

掲載位置…10頁、6



陣内惣三郎氏

(長崎市本紺屋町)

佐賀県の人、明治三十三年帝国大学法科を卒へ同時に長崎地方裁判所判事に補せられる、在ること四年、三十六年職を辞して弁護士となる

掲載位置…11頁、1

人名原文表記…陣内惣三郎



千々石広次氏

(長崎市稻佐郷)

氏は佐賀県出身明治三十一年より本県検疫官及女神検疫所医員等を奉職し明治三十五年の暮より前記肩書地に開業せり

掲載位置…11頁、2

人名原文表記…千々石廣次



千々石愛吉氏

(長崎市西浜町)

長崎市に於て米穀商を営み又長崎米穀取引所の仲買人となり信用厚く事業益盛大なり

掲載位置…11頁・3



霖玉仙氏

(長崎市寺町)

氏は名古屋市に生る、去る明治十一年浪ノ平町太平寺の住職となり次で上長崎村妙相寺住職となり十九年皓台寺住職となり以て今日に至る、長崎県第一曹洞宗務所長、曹洞宗第二十六区議員、台湾布教総監等の重職にあり

掲載位置…11頁、4



岡崎宗太郎氏

(長崎市西山)

氏は西山に生る、明治三十一年十一月より
市立長崎商業学校教諭拜命明治四十年十二
月退職四十一年二月西山郵便局長拜命現今
に至る

掲載位置…11頁、5

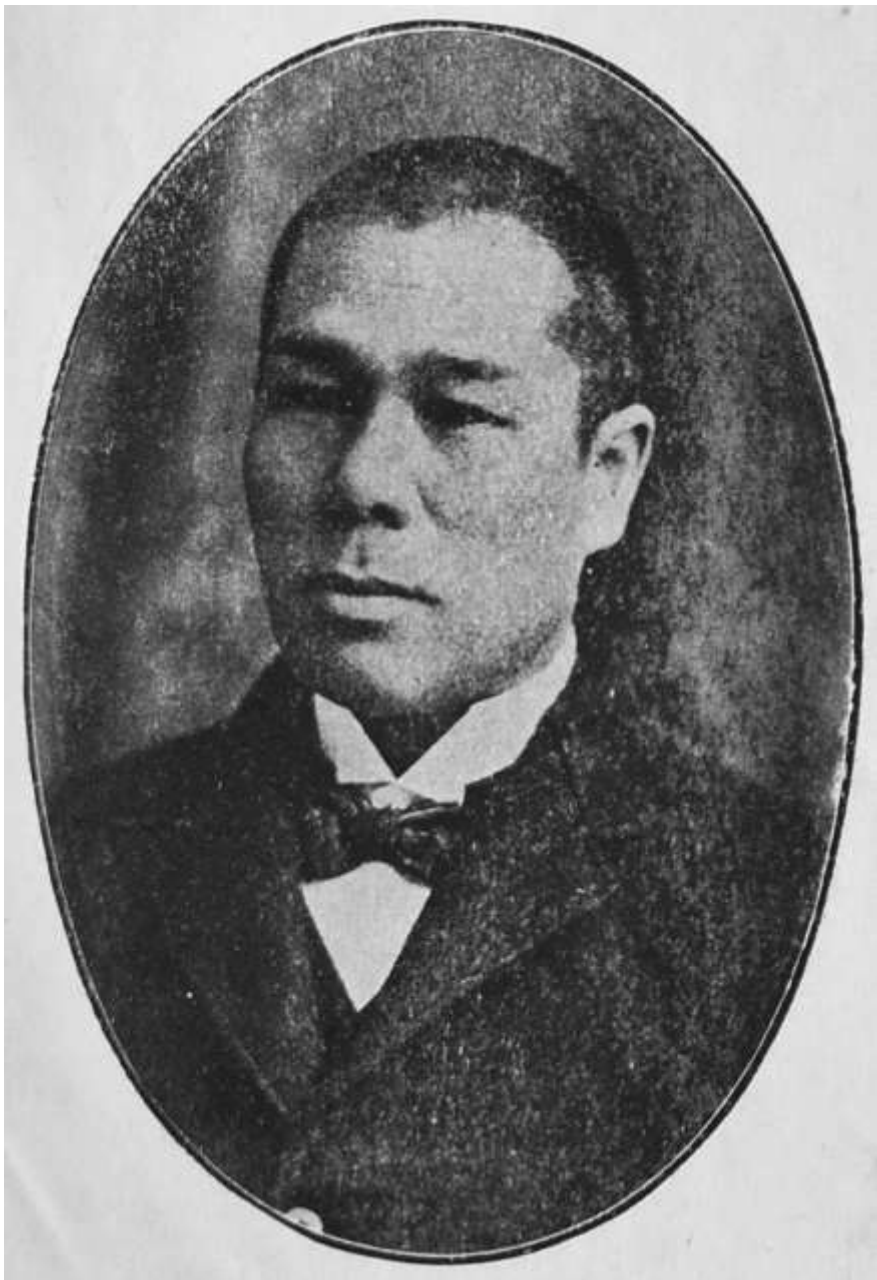


小野原孫一氏

(長崎市本下町)

佐賀県の出身夙に長崎市に來りて實業に従事し征台当時台湾に渡りて初め樟腦製造を為し又各種の事業を經營して總て成功の域に在り

掲載位置… 11頁、6



大谷周庵氏

(長崎市興善町)

帝国大学医科大学の出身嘗て県立長崎病院
長崎医学専門学校教授たり欧州に留学を
命ぜられ帰来医学博士の称号を授けられ内
科の名医にして大森博士の外科と共に九州
医学界の双璧と称せられたることあり近時
総て官職を辞して現在の場所に於て医術を
開業し済民の事業に献身しつつあり

掲載位置… 12頁、1



帶屋宗七氏

(長崎市本古川町)

有名なる劇場「舞鶴座」は氏の所有たり明治二十二年の建築にして総坪数一千三百余坪、定員二千二百九十六人、当時日本一の劇場と称せらる、質屋業、蠟燭製造業を営む体躯偉大肥満会の棟領たり

掲載位置…12頁、2

人名原文表記…帶屋宗七



岡部忠太郎氏

(長崎市東浜町)

氏は呉服太物商、明治三十四年より四十年迄長崎港湾委員に挙げられ、四十年市会議員となり次で四十四年長崎商業会議所議員となり嘗ては呉服商委員宅地価修正委員等に推挙さる長崎市屈指の富豪たり

掲載位置…12頁、3



小山吾郎一氏

(長崎市本興善町)

大分県の出身明治大学を卒業同時に優等の成績を以て弁護士試験に及第、一時山形県に於て弁護士を開業し居ること数年にして長崎市に來り引続き現在の場所に弁護士を開業し令名あり

掲載位置…12頁、4



緒方辰五郎氏

(長崎市大浦)

呉服太物商にして開業以来既に三十有余年に達す、明治四十二年挙られて長崎商業会議所議員となる

掲載位置…12頁、5

人名別表記…緒方辰五郎



小野七五三蔵氏

(長崎市中川郷)

多年長崎県庁に奉職し敏腕の称あり累進して事務官補に任ぜられ現に地方課長として令名あり

掲載位置…12頁、6

人名原文表記…小野七五三蔵



大神九八郎氏

(長崎市伊勢町)

質屋業にして長崎質商組合の協議員、長崎
港湾委員たり、明治四十年七月市参事会員
に推され、公共に尽瘁せるもの頗る多し

掲載位置…13頁、1

人名原文表記…大神九八郎



小川寅六氏

(長崎市本博多町)

早稲田大学出身明治二十二年長崎市に於て
弁護士を開業し爾来二十有余年間専心法律
事務を執る而も齡纔に四十七春秋に富めり
温厚の君子人早稲田大学は同氏を挙げて評
議員に列せり

掲載位置…13頁、2



岡部政太郎氏

(長崎市東浜町)

呉服太物商、明治三十六年長崎商業会議所特別議員に推されたる以来四十一年には県会議員となり、所得調査委員。税務審査、調査委員等の名誉職に挙げられ現に長崎市呉服商副取締役たり

掲載位置…13頁、3



岡真二氏

(長崎市江戸町)

長崎市立商業学校卒業後暫く小曾根鉄工場に入り後独立の実業を営むこと数年明治三十九年三月大阪火災保険会社に入り間もなく同会社の長崎支店長に任ぜられ現に其職に在り

掲載位置…13頁、4

人名原文表記…岡真二氏



奥田松次郎氏

(長崎市銀屋町)

天保二年祖父清兵衛氏始めて開業せし以来
薬種売薬業を営み引続き今日に至る現に長
崎薬業会副会長なり

掲載位置・・13頁・5



脇山啓次郎氏

(長崎市浦五島町)

最も古き貿易商の一人事業頗る盛大なり温厚篤実理想的の実業家にして使用人を遇すること厚く一度氏の商店に入るもの皆其の恩に感ぜざるものなく現に十五年以上勤続の使用人数名に達すと言ふ又市会議員商業会議所副会頭等に挙げられ公共事業に尽力せるもの少なからず

掲載位置…13頁、6



鹿兒島時成氏

(長崎市本紺屋町)

明治十八年東京医科大学医学部別科卒業神
戸病院医長伊万里病院長等に歴任し明治三
十二年以来長崎市に於て開業学殖ある好紳
士なり

掲載位置…14頁、1

人名原文表記…鹿兒島時成



香月福次郎氏

(長崎市炉粕町)

前称永野氏後香月氏に復籍す明治二十年リ
ンガー商会に入り勤続二十六年に及び現に
船舶部主任たり、又長崎市に於ける資産家
の一人として知らる

掲載位置…14頁、2

人名原文表記…香月福次郎



加納友市氏

(長崎市中川郷)

明治二十一年島根県師範学校卒業後、農業、
博物、普通科等の中等教員免状を得、島根、
新潟、奈良青森各県の師範学校に教鞭を執
り明治四十年五月長崎師範学校附属校主事
に任ぜらる

掲載位置… 14頁、3



神居繁太郎氏

(長崎市本紺屋町)

長崎市の弁護士なり法政大学を卒業して暫く司法官となり後長崎商業会議所の書記長となりて敏腕の聞高かりしが数年前再び法律界に歸りて前記の箇所にて弁護士を開業す

掲載位置…14頁、4

人名原文表記…神居繁太郎



河内健一氏

(長崎市本籠町)

東彼三浦村の人明治四十一年京都医科大学の出身なり、卒業後四ヶ月間大学院産婦人科に勤務し去りて県下諫早に来たり四十三年九月迄同地に開業し翌十月転じて長崎に出で、内科小児科専門医として開業せり

掲載位置…14頁、5

人名原文表記…河内健一



川野忠八郎氏

(長崎市大浦)

多年長崎市大浦に居住して実業に従事し又
土地の公共事業に尽力し徳望あり

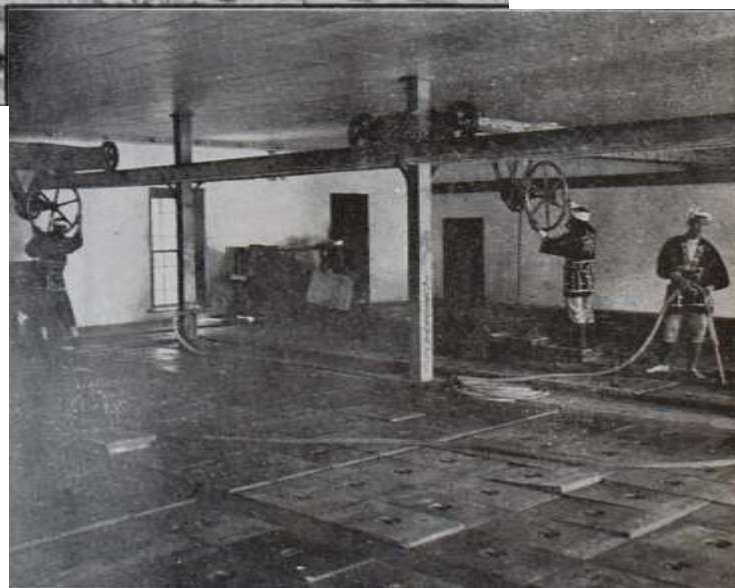
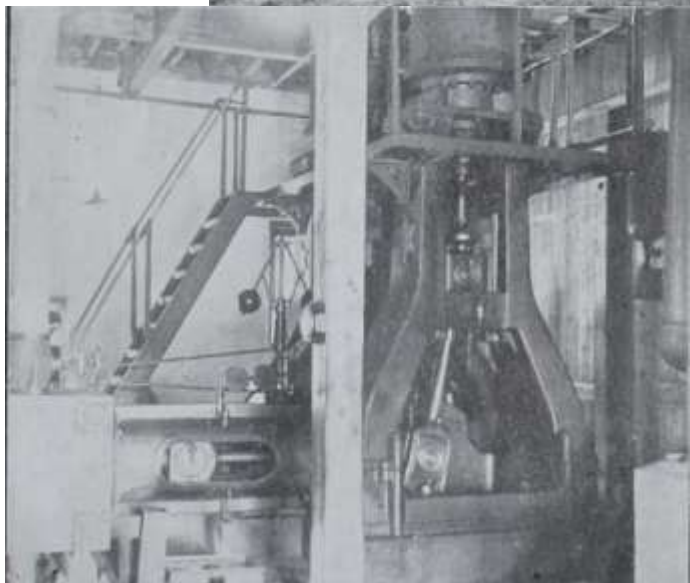
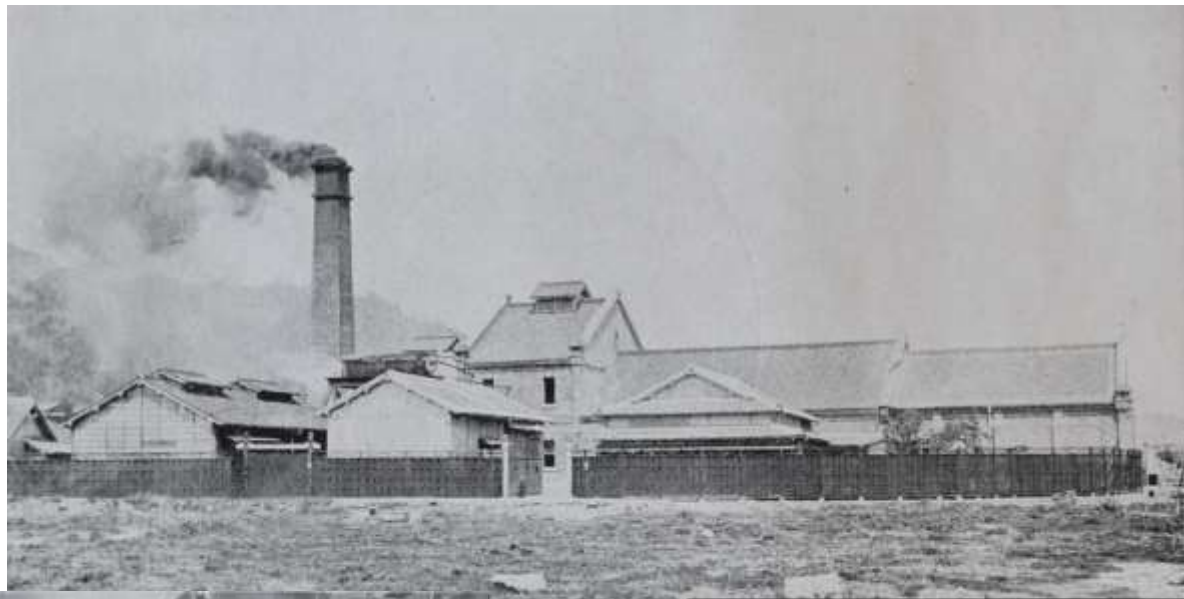
掲載位置・・14頁・6



長崎製氷会社の新築工場

長崎市稲佐郷に在り

掲載位置・・15頁



阿久根医院

長崎市本古川町に在り外科専門の医院にして院長は阿久根重志氏なり

掲載位置…16頁、1



小林回漕店

長崎市玉江町に在り回漕業の外旅館を兼ね

掲載位置・・16頁・2



加来庄作氏

(長崎市八坂町)

氏は大分県中津の人明治三十四年長崎医学
専門学校第一回の卒業生、後ち大学小児科
教室に勤務し、東京浅草内田小児科病院に
実地の錬磨を積み再び長崎に來たり小児科
専門医として明示三十七年八坂町に開業せ
り

掲載位置…17頁、1
人名原文表記…加來庄作



川添甚三郎氏

(長崎市江戸町)

氏が先代の時即ち文久元年四月始めて板ガラスの直輸入を為す恐らく日本最初のガラス商ならん氏の代に至りて益事業を拡張し自由倉庫内に加工場を設けて満韓地方にスリガラスの輸送を為し又九州各地は勿論台湾及山陽道方面まで直輸入品の販売を為す

掲載位置… 17頁、2



柿井田泰治氏

(長崎市十人町)

鹿児島の人、去る明治三十七年大阪商船会社に入り後長崎支店長に任じ勤続以て今日に至る、嘗て二十七八年日清役の際台湾税関受取方を命ぜられ、七年間同地税関に在勤せしことあり

掲載位置…17頁、3



鎌田栄次郎氏

(長崎市本博多町)

愛媛県出身長崎に來りて菓子商となり斬新の経営法は能く時世に適中して奏効し本博多町の本店の外築町に支店を設置する等事業愈よ盛大なり

掲載位置…17頁、4

人名原文表記…鎌田栄次郎

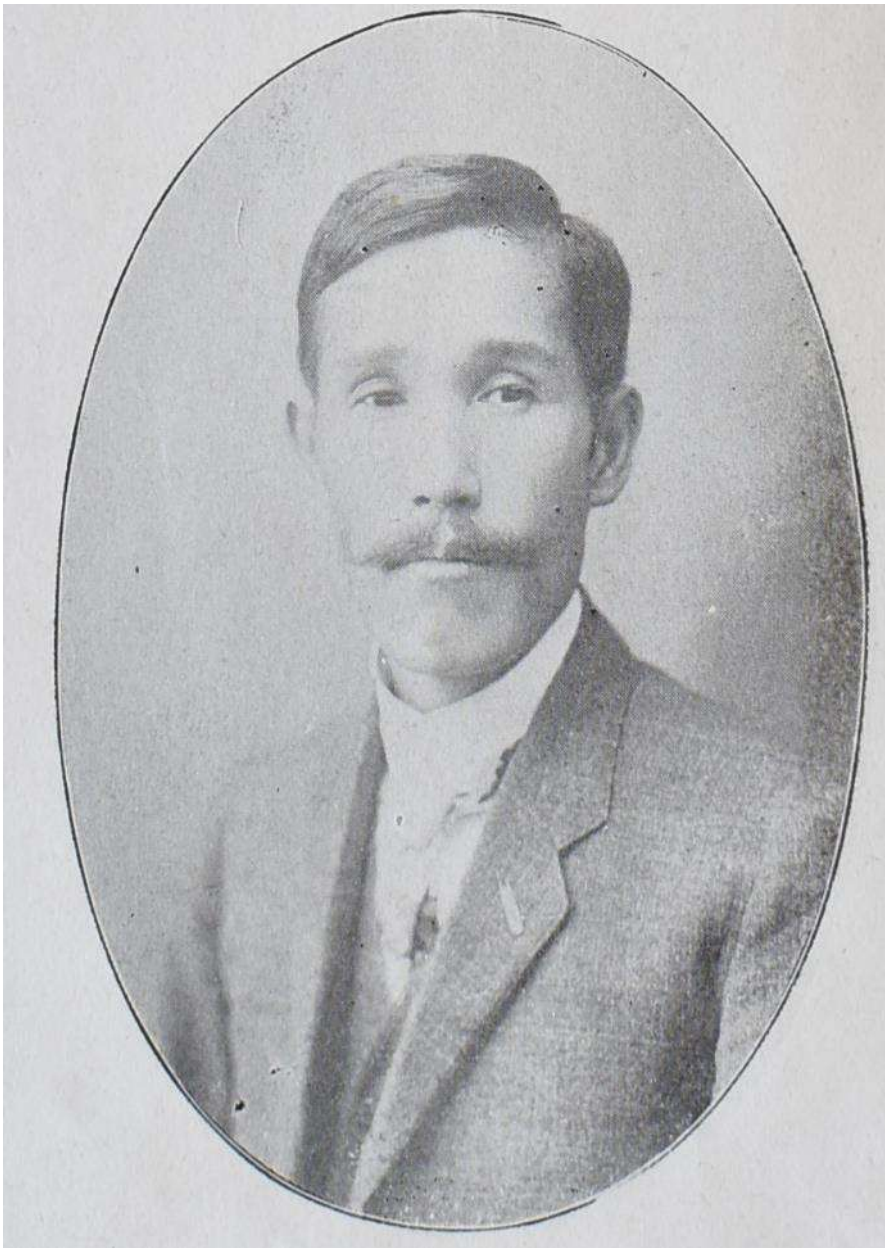


片岡茂八氏

(長崎市飽浦)

氏は明治三十二年九月飽浦郵便局長勤務今日に至る四十三年四月より長崎市会議員又四十三年十月より長崎交通船株式会社取締役兼社長に当選す

掲載位置…17頁、5



横手貞護氏

(長崎市西上町)

氏は大分県宇佐郡の人、故高畑博士の門下にして博士の死亡と共に其後を継ぎて耳鼻咽喉専門として開業せり

掲載位置…17頁・6



米村義忠氏

(長崎市本博多町)

鳥取県の出身、司法官として在職二十ヶ年に及び高知県より転任して長崎市に來り長崎地方裁判所判事区裁判所監督判事として令名ありしが去る明治三十六年官を辞して野に下り長崎市に於て弁護士を開業し今日に及べり

掲載位置・・18頁、1



吉雄敬氏

(長崎市新町)

長崎医学学校卒業後直ちに乃父の後を継ぎて
長崎市新町に医術を開業せり

掲載位置…18頁・2

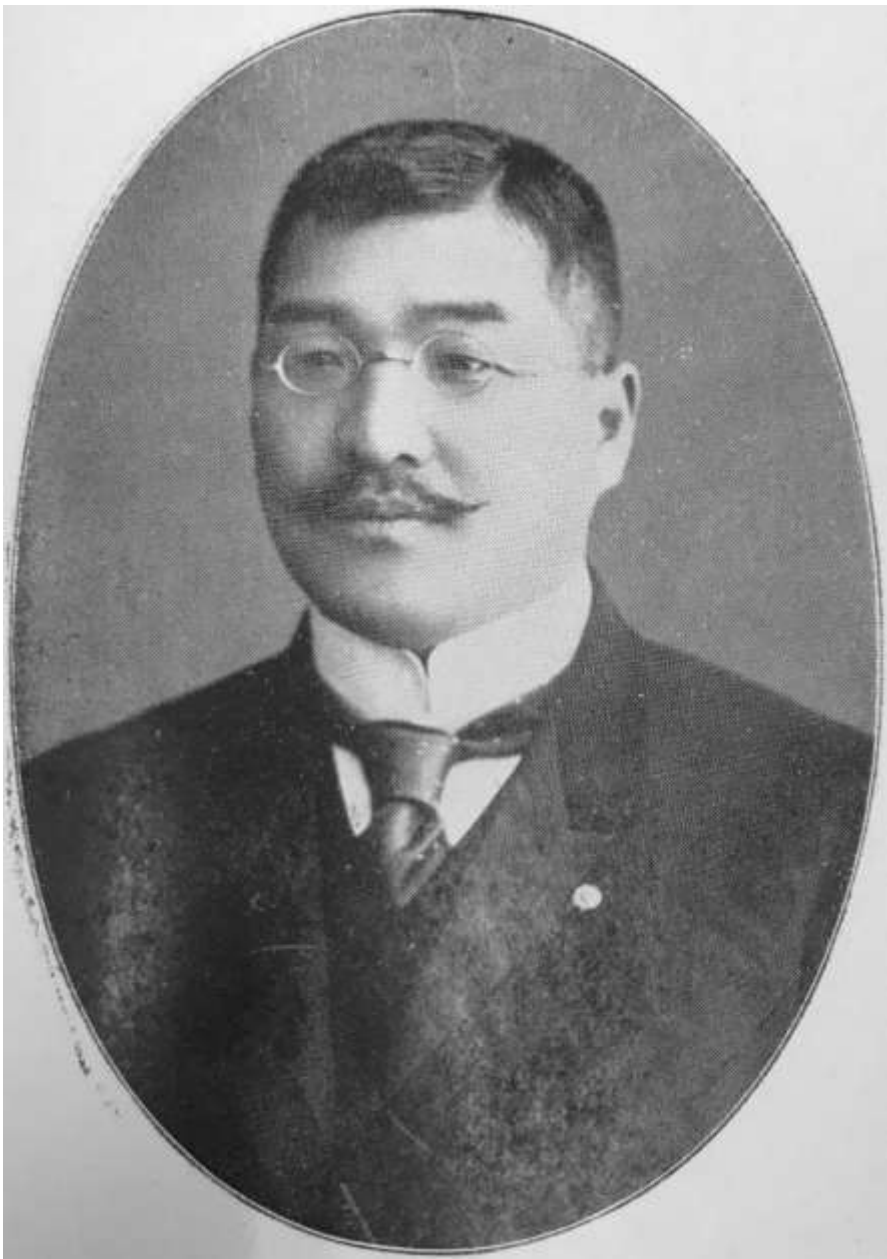


吉田佐太郎氏

(長崎市大浦郷)

氏は山形県西田川郡大泉村の人、明治二十二年東京税務監督局属に任命せられ夫より漸次累進して四十二年十一月長崎税務署長となれり

掲載位置…18頁、3



吉田嘉市氏

(長崎市稲佐郷)

氏は明治三十二年より今日まで稲佐分署管内消防組頭を勤む従来長崎の消防は二部なりしを三部とせしが如きは氏の功劳なり、義気に富み郷党に推重せらる

掲載位置・・18頁・4



田川午次郎氏

(長崎市片淵)

氏は佐賀県藤津郡嬉野村の人明治二十三年八月本県看守拜命爾来漸次累進看守長となり第一課長として多年長崎監獄に在勤せしが四十三年十二月片淵分監長に補せらる

掲載位置…18頁、5



田中忠三郎氏

(長崎市江戸町)

最も古くより長崎市に洋服裁縫業を営み技術の優秀なる為め顧客の信用厚く事業日に隆盛に向ひつつあり

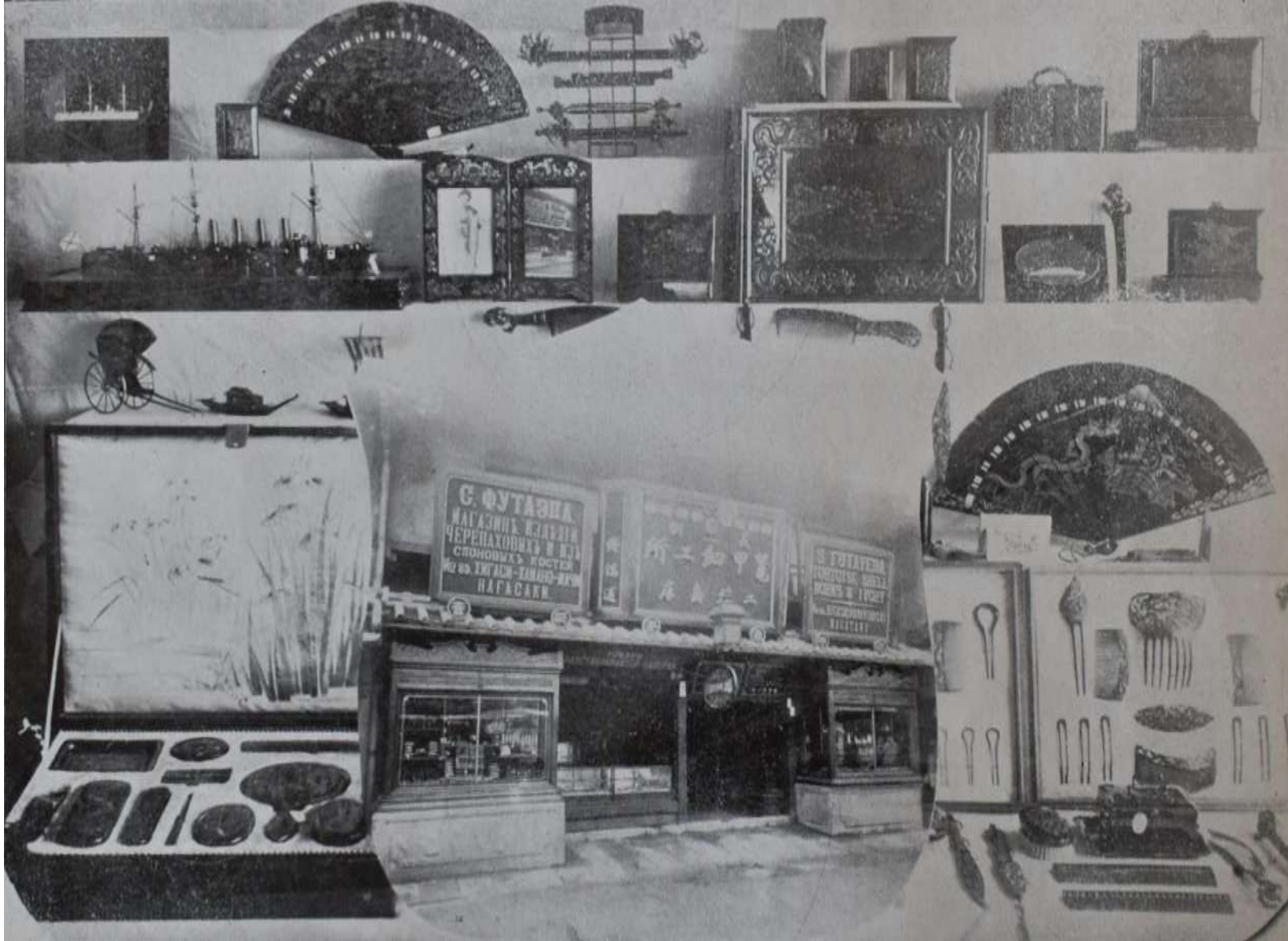
掲載位置・・18頁・6



二枝鼈甲店の製品

鼈甲製品は長崎市の特産物たり図は東浜町
二枝鼈甲店の製作にかかるもの技術精巧を
極む

掲載位置…19頁



田代正氏

(長崎市豊後町)

福井市の出生明治十五年帝国大学を卒業後直ちに長崎市に來りて県立長崎甲種医学校の教授及県立長崎病院の医員を奉職し三十二年現在の医学専門学校長となり又三十八年県立長崎病院長となる九州医学界の恩人にして長崎県下の医師殆んど氏の薫陶を受けざるものなし従四位勳二等を拝す

掲載位置…20頁、1



田中政彦氏

(長崎市新町)

医師雨森一郎氏の令弟にして長崎医学専門学校を卒業し猶ほ斯学の緼奥を極るため独逸に留学中なり

掲載位置…20頁、2

人名原文表記…田中政彦



高橋保馬氏

(長崎市西中町)

明治十三年始めて東京上等裁判所附属の代
言人となりたる以来今日まで弁護士の職に
在る実に三十三年其間明治十五年長崎市に
来り嘗て長崎弁護士会長、長崎市会議長、
市参事会員等の栄職に従事したることあり

掲載位置…20頁、3



高比良友三氏

(長崎市高野平)

長崎県警察部に奉職し精勤の称あり在職二十余年に達し累進して警視に任ぜられ警務課長より転じて梅ヶ崎署長を命ぜらる

掲載位置・・20頁・4



田口茂助氏

(長崎市築町)

開業既に六十年に達する有名なる呉服太物
商にして頗る信用あり氏は先代の遺業を継
承せり

掲載位置…20頁、5



立野権二氏

(長崎市東濱町)

佐賀県の人、明治十三年鍛冶屋町にて開業し、後ち現在の処に転居す、欧米雜貨、貴婦人用小間物化粧品、煙草用具類等を商ふ四十二年挙られて長崎商業會議所議員となる

掲載位置…20頁、6

人名原文表記…立野権二



高木与作氏

(長崎市東濱町)

佐賀県牛津の出生夙に長崎市に來り実業界に成効して巨万の富を重ね資産八百万円九州第一の資産家と称せらる又公共事業に尽力し濟世会の組織せらるるや長崎県委員長長に挙げられ自ら辛先して二万円を寄附す齡古稀を越ゆるも赫纒として壯者を凌ぐ

掲載位置…21頁、1
人名原文表記…高木與作



立花照夫氏

(長崎市西山)

明治十九年故中島廣行氏の後任として諏訪
神社の宮司となり爾来今日に至れり現に長
崎県神職会長、長崎県皇典講究分所長たり

掲載位置…21頁、2



高見和平氏

(長崎市榎津町)

長崎市屈指の資産家にして質屋業を営み、
又十八銀行の取締役たり

掲載位置…21頁、3



為政虎三氏

(長崎市)

長崎市に於て早く写真業を開業し技術優秀にして其名県内に高し来遊の外人又伝へ聞きて撮影を依頼し常に門前市をなすの盛況なり市会議員に挙げられ公共事業に尽力す

掲載位置…21頁、4

人名原文表記…為政虎三



田辺啓蔵氏

(長崎市本古川町)

明治三十五年開業の弁護士なり、帝国大学卒業後台湾製糖会社庶務部長、紐育保険会社支部長、弁務所長等に奉職せることあり九州汽船株式会社組織に尽力し其取締役となる

掲載位置…21頁、5
人名別表記…田邊啓蔵



田中龍蔵氏

(長崎市出来鍛冶屋町)

元と南高口の津医師の息、木村喜一郎氏に就て漢学を修む、明治八年叔父森本呉服店の後を継ぎて爾来呉服太物商を営む三十五年長崎商業会議所議員となり、港湾委員、軍人家族授産場常務員等とあり四十四年長崎商業会議所副会頭に挙がる

掲載位置…21頁、6

人名原文表記…田中龍蔵



高見松太郎氏

(長崎市桜町)

氏は明治二十九年市会議員となりたる以来、
県会議員、所得税調査委員となり、三十五
年代議士に推され、次て長崎商業会議所議
員となり、四十三年には日露戦争の功によ
り菊花御紋銀盃一組を賜り、現に宅地価調
査委員、営業審査委員、長崎電灯会社、長
崎製氷会社、九州火山灰会社等の各監査役
にして公私の間に勢力あり

掲載位置…22頁、1



武清氏

(長崎市磨屋町)

九州大学医科大学出身の医学士先年現在の場所に花柳病外科病専門の医院を開業し患者の信用厚く日に隆盛に赴きつつあり

掲載位置・22頁・2

人名原文表記・武清



田坂正生氏

(長崎市西山)

氏は山口県出身の人にして明治二十五年三月下の関商業学校卒業二十八年二月安田系統の銀行に入りしが日本商業銀行の設立せらるるや同行の要路に入り三十七年神戸市元町支店長となり四十二年五月長崎支店長に転ず

掲載位置…22頁、3



田中進氏

(長崎市戸町)

久しく現在の場所に医術を開業し患者の信
頼頗る厚し外科殊に花柳病は其最も得意と
する所にして梅毒及痔疾に特別の療法を有
すと云ふ

掲載位置…22頁、4



竹井林太郎氏

(長崎市樺島町)

汽船廻漕業にして旅館を兼営す嘗て煙草仲買外国貿易等を営み明治二十七年台湾総督府の酒保となりたる関係より台北及基隆の二ヶ所に支店を開設して現に雑貨商を営みつつあり

掲載位置…22頁、5



高島太吉氏

(長崎市銅座町)

多年長崎市に於て外国貿易商を営み又傍ら
長崎米穀取引所に仲買店を有し近時定期界
の成功者と称せらる

掲載位置…22頁、6



八坂眼科病院の全景

長崎市出島に在り土地閑静多数の入院患者
を収容す

掲載位置・・23頁



団野辰次郎氏

(長崎市袋町)

京都市の出生、明治中央両大学に学び明治三十四年司法官となり同四十年鹿児島地方裁判所判事を辞して長崎市に來り弁護士を開業し令名あり

掲載位置…24頁、1

人名原文表記…團野辰次郎



田中榮吉氏

(長崎市袋町)

長崎市有数の清酒販売業にして開店既に五十年に達す、長崎市会議員に挙げらるる事二期今尚在任中

掲載位置・24頁、2

人名原文表記・田中榮吉



伊達太吉氏

(長崎市梅ヶ崎町)

早くより酒類販売業を営み日に隆盛なり市
会議員として公共事業に尽力すること多年
資性闊達にして交際に長す

掲載位置…24頁、3



高田仁平氏

(長崎市西浜町)

福岡県の人久しく長崎市に在りて米穀商を
営み後長崎米穀取引所の仲買人となりて信
用あり別に西浜町に雑貨店を経営す

掲載位置・・24頁・4



田中際蔵氏

(長崎市引地町)

早稲田大学法科出身長崎市に於て鉦山委託
売買を営み大阪商業興信所支所長たり

掲載位置…24頁、5

人名原文表記…田中際蔵



田口梅太郎氏

(長崎市榎津町)

多年長崎市に於て葬具店を営む實に其元祖
にして氏の代に至りて愈よ盛大なり

掲載位置…24頁・6



田代善太郎氏

(長崎市東中町)

氏は福島県白河郡白河町の人明治二十五年三月福島県師範学校卒業卅年三月東京高等師範学校を卒え同年四月福島県師範学校教諭となり夫より熊本に転任三十五年四月本県長崎高等女学校教頭に転ぜり

掲載位置…25頁、1



谷口良三氏

(長崎市大村町)

早稲田大学商科出身松島炭坑に聘せられて
現に松島に在り多芸多能最も交際に長ず

掲載位置…25頁、2



園田勝之進氏

(長崎市西山)

多年長崎県警察界に奉職し謹直精勤の間あり現に警察部衛生課長として令名あり

掲載位置…25頁、3

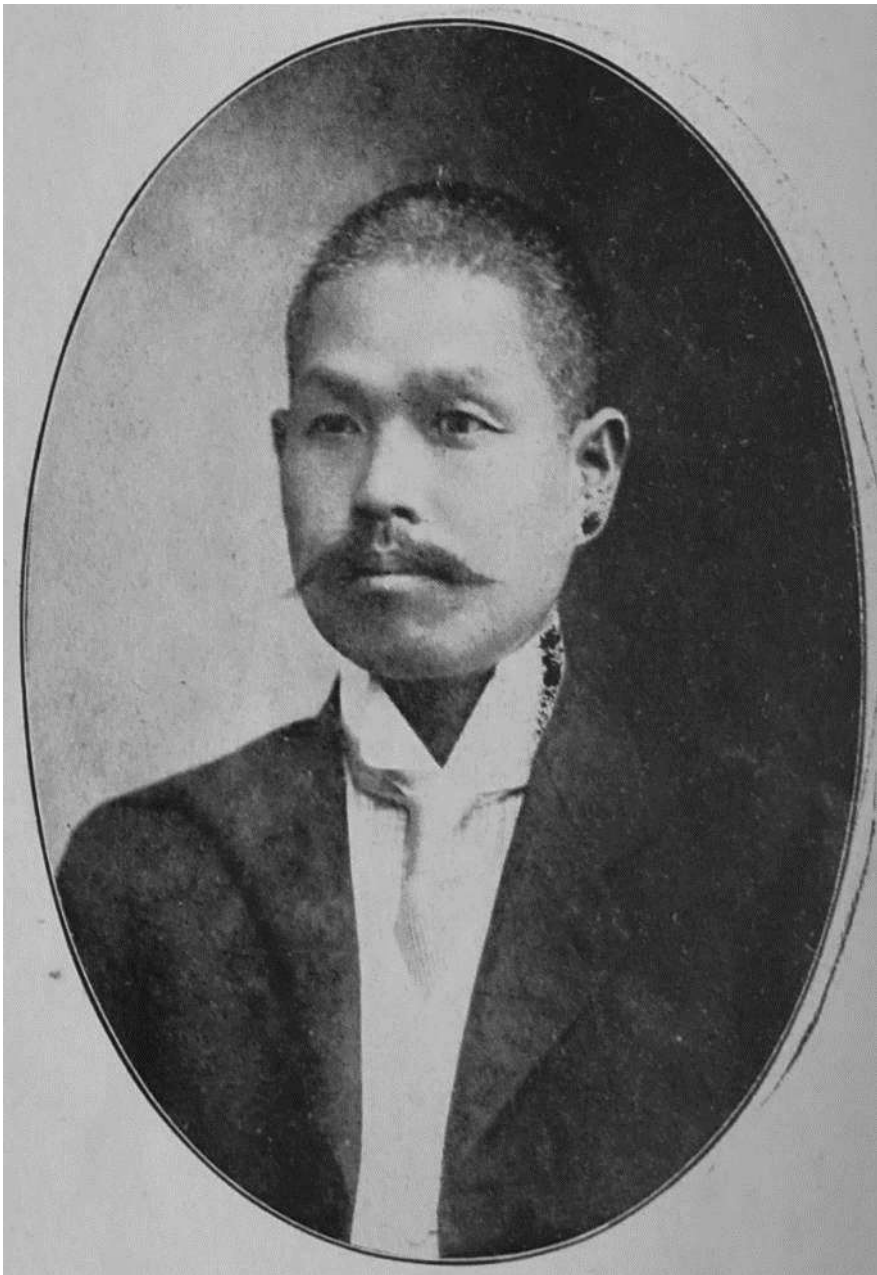


堤英夫氏

(長崎市浦五島町)

筑後の国八女郡の人、二十歳にして実業に就き現今水産、貿易磚茶等各種の業を営み声名あり下の関市岬の町に支店を有し朝鮮釜山にも又た出張所を置く昨年長崎商業会諸(議カ)所議員に挙ぐる

掲載位置…25頁、4

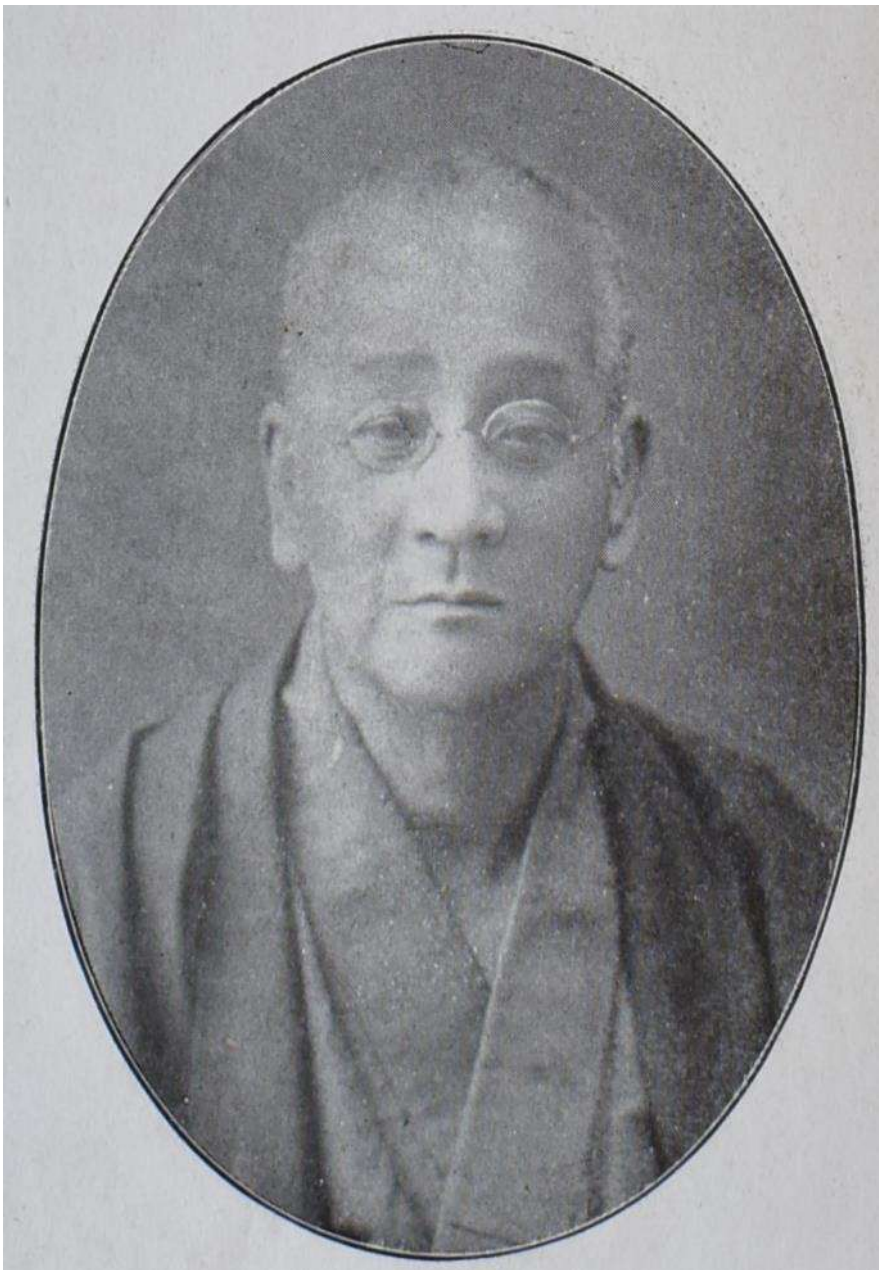


永田幸太郎氏

(長崎市寄合町)

二十余年間丸山遊廓の取締として其名を知らる又政治に興味を有し嘗て絵入長崎と題する新聞社を創立したることあり

掲載位置…25頁、5



永田重雄氏

(長崎市桜馬場)

明治三十年十月赤間関市立商業学校助教諭を拝命し同三十四年同校教諭となりたる以来福岡商業唐津中学等に教鞭を執り明治四十二年長崎商業学校教諭に任せられたり

掲載位置…25頁、6



永見寛二氏

(長崎市小島)

長崎市実業界の大立物として其名全国に知らる曰く十八銀行副頭取曰く長崎電灯会社長曰く長崎製米会社長長崎市の大小の事業多く氏の関係せざるものなし又嘗て商業会議所会頭衆議院議員等の栄職に挙げらる資質温厚にして慧敏事業上の才能は全く天稟と称せられ十八銀行の事実上の首脳として今日の盛大を致したるもの全く氏の力なり近時電灯会社を改革して大拡張を為す現代議士なり

掲載位置…26頁、1
人名原文表記…永見寛二



永尾作十郎氏

(長崎市今博多町)

県下北高来郡の人明治二十七年長崎市に出
で弁護士となり現に長崎弁護士会の副会長
たり

掲載位置…26頁、2



中村健三氏

(長崎市万歳町)

明治八年司法属より検事に歴任し職に在る事十有九年、二十六年退職して長崎市に來たり翌二十七年より四十一年迄弁護士、同年公証人となり目下長崎市万歳町に公証役場設けて懇切に執務す

掲載位置…26頁、3



中原甚三郎氏

(長崎市本石灰町)

長崎市に於て有名なる料理店大鶴楼の主人
なり出身は佐賀の藩士頗る俠気あり又文藻
に富む同業中の珍人物なり

掲載位置・・26頁・4



中島栄三氏

(長崎市西浜町)

外国貿易、肥料販売等を営む、明治四十四年長崎商業会議所議員に挙がる

掲載位置…26頁、5

人名別表記…中島栄三



永野虎亀氏

(長崎市興善町)

南高来郡口ノ津村の出生長崎中学校を卒業して長崎新報社に入り明治二十七年以来煙草販売業に従事したるが専売法の実施と共に三十七年長崎西部煙草合名会社を組織し業務執行社員となり別に酒美氏等と内美商会を起して石油の販売に従事せり

掲載位置…26頁、6
人名原文表記…永野虎亀



永見豊次郎氏

(長崎市銅座町)

氏は倉庫業にして幾多の倉庫を有し又長崎米穀取引所の理事たり、明治四十年市会議員となり四十二年長崎実業会々長に挙げらる

掲載位置…27頁、1



中村雄太郎氏

(長崎市浦五島町)

質屋業、倉庫業を営む氏は其二代目にして創業以来五十年に達す明治四十四年長崎商業会議所議員に挙がる

掲載位置…27頁、2



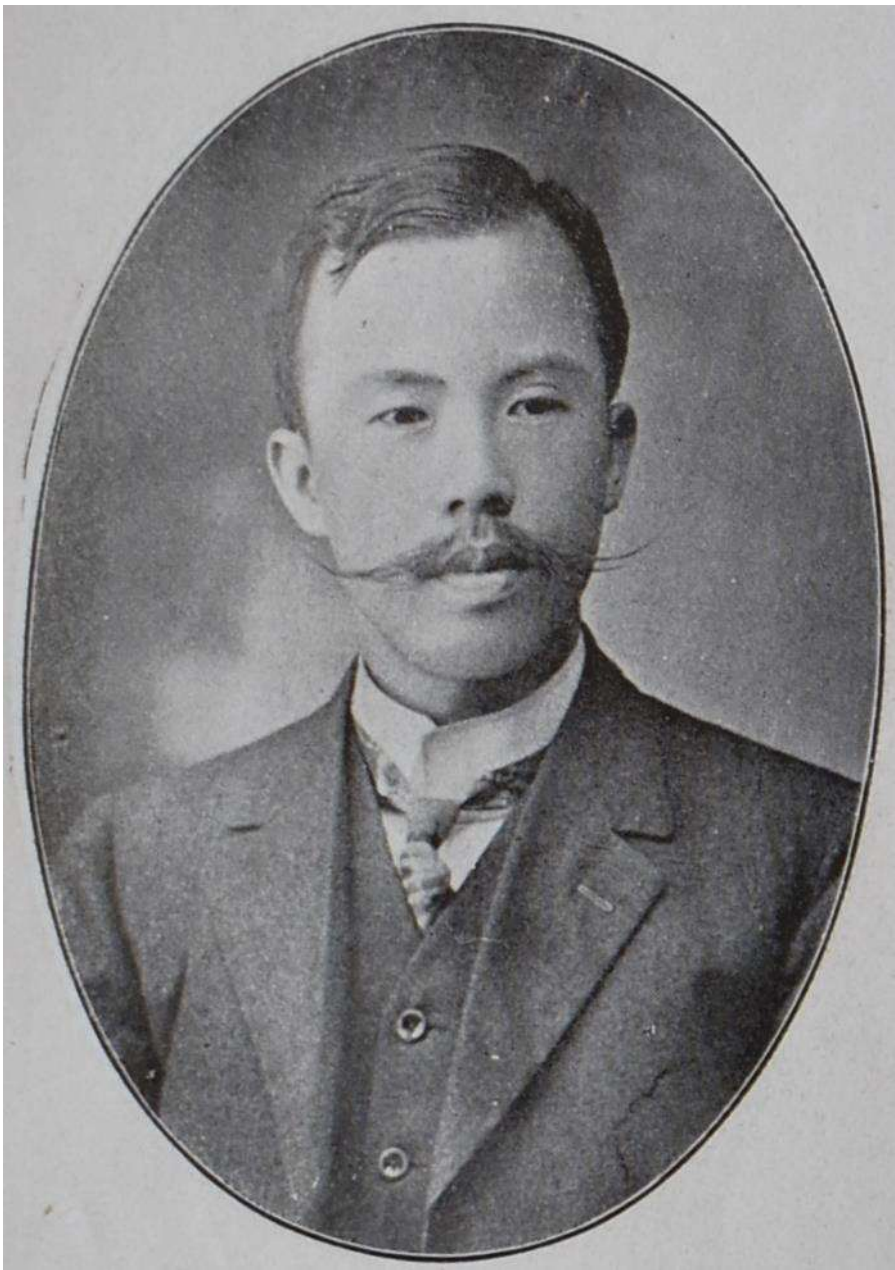
成瀬省三郎氏

(長崎市浪の平)

氏は明治四十年十一月長崎医学専門学校を卒業し直ちに県病院婦人科に奉職四十四年六月二十八日病院退職同年七月一日より開業す

掲載位置…27頁、3

人名原文表記…成瀬省三郎



永石岩三郎氏

(長崎市大浦)

氏は請負業にして長崎市常磐町に事務所を
置き佐世保市上町に支店を有す、佐世保鎮
守府の御用商人として信用厚く其事業益々
隆盛なり

掲載位置…27頁、4



中尾福蔵氏

(長崎市大浦)

佐賀県の出身、少時官界に在り後辞して長崎市に來りて米穀商を営み長崎米穀商組合の副組長及長崎商業會議所議員に挙げらる資性活発にして地方公共の爲めに尽力す

掲載位置…27頁、5

人名原文表記…中尾福蔵



長石郁爾氏

(長崎市大浦)

南高来郡の出身一時長崎県警察官を奉職し
辞して後更に大浦郵便局長に任ぜられ今日
に至る地方に名望あり公共事業に尽力す

掲載位置…27頁、6



中村忠氏

(長崎市飽ノ浦)

氏は西彼杵郡長浦村の人明治三十四年十一月長崎医学専門学校卒業夫より一年志願兵として大村連隊に入営其後朝鮮釜山公立病院勤務明治三十七八年戦役に参加し陸軍二等軍医に昇進凱旋後前記肩書地に開業す

掲載位置…28頁、1



中津海知幾氏

(長崎市東濱町)

早稲田大学出身、長崎市東濱町に書籍店及
新聞雑誌の取次業を経営し頗る盛大なり

掲載位置…28頁、2



中泉半弥氏

(長崎市飽ノ浦)

多年三菱造船所に勤務し枢要の地位に在り
交際に長じ常に造船所を代表して長崎市会
議員に挙げらる

掲載位置・28頁・3

人名原文表記・中泉半彌



中村政通氏

(長崎市大浦)

氏は加賀の人、久しく米国に在り、明治三十九年長崎消毒所を設置し主として海外移民の消毒を業と為す

掲載位置・・28頁・4



頼尊淵之助氏

(長崎市本古河町)

明治三十六年帝国大学工科大学採鉱冶金学
科を卒へ筑前の明治炭坑に入り四十二年七
月西彼杵郡松島炭坑長となり大に其技能を
発揮し同坑前途の確立に与つて大に力あり

掲載位置…28頁、5



村岡潜蔵氏

(長崎市伊良林)

下の関商業学校の出身、後ち九州鉄道、筑前明治炭坑等に入り明治四十三年八月より西彼杵郡松島炭坑の主事として今尚同坑にあり

掲載位置…28頁、6

人名原文表記…村岡潜蔵



村上半三氏

(長崎市稻佐)

鹿児島県出身、長崎市に來りて煙草製造業を営み専売法実施と共に長崎佐賀両県煙草製造家の組合長に挙げられ又自由倉庫会社を發起して其社長となり近年物理機械の製作及朝鮮釜山に巻煙草の製造業を開始せり別に村會議員、郡會議員、郡參事員、港灣改良調査委員などに挙げられ公共事業に尽力する所尠からず

掲載位置…29頁、1



上野弥平氏

(長崎市万歳町)

多年長崎市の有志家として公共の為め尽力せるもの尠からず不幸中道失明したるは惜むべし其経営にかかる施館上野屋は九州第一の旅館として最も有名なり

掲載位置…29頁、2

人名原文表記…上野彌平



白田正胤氏

(長崎市今下町)

明治三十四年、明治法律学校の出身なり、
直に判事に補せらるるや小倉支部の判事と
なり三十八年長崎に出て弁護士を開す

掲載位置…29頁、3



野崎桑太郎氏

(長崎市今鍛冶屋町)

氏は佐賀県東松浦郡浜崎村に生れ明治四十二年四月三日株式会社不動貯金銀行長崎代理店を開くに当り創業の任を帯び引続き其主任として在職す

掲載位置…29頁、4



納富甚吉氏

(長崎市玉江町)

佐賀県の出身、夙に長崎市に來りて實業に従事し汽船廻漕店大川汽船の代理店等を経営し嘗て商業會議所副会頭、市會議員、市参事會員等に挙げられ盛名あり

掲載位置…29頁、5



野中管一郎氏

(長崎市上筑後町)

佐賀県神崎郡西郷村の出身、代々酒造業製
蠟業を営み後定期界に入り明治四十三年三
月長崎市に來りて長崎米穀取引所の仲買人
となり信用あり

掲載位置…29頁、6

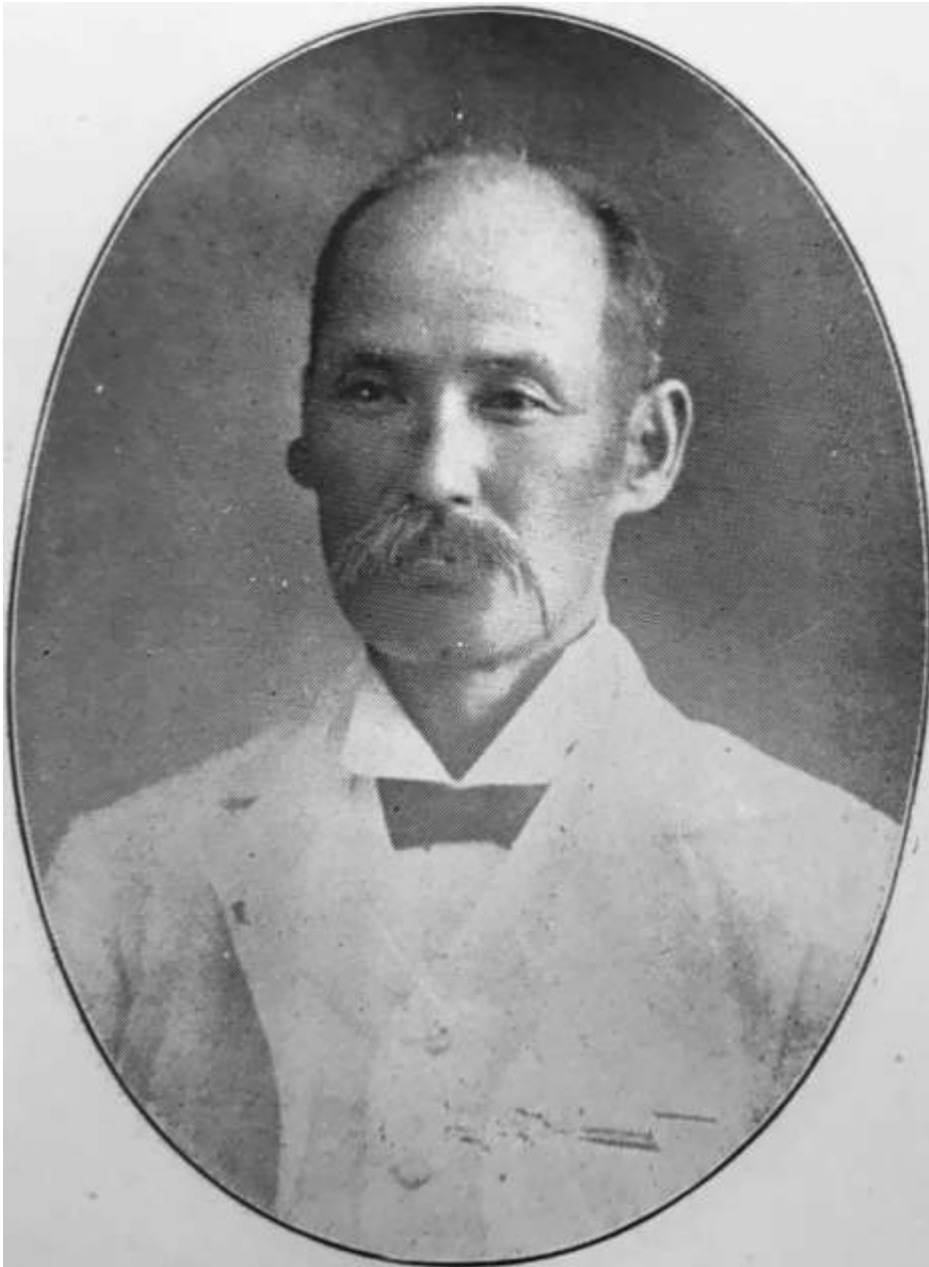


則元由庸氏

(長崎市外浦町)

熊本県の人、明治二十一年長崎市に來りて
弁護士となる、三十二年より市會議員とな
り松田源五郎氏死亡の後を繼ぎて市會議長
たる事多年、三十六年四月より四十年国有
となる迄引続き九州鐵道株式會社取締役た
り、明治四十五年の總選挙に郡部より代議
士に挙げらる

掲載位置…30頁、1



野口鼎治氏

(長崎市西山)

銀行会社等に関係し実業界に勢力あり又嘗て県会議員市会議員等に挙げられ公共事業に尽力せるもの多し

掲載位置…30頁・2



倉場富三郎氏

(長崎市大浦南山手)

三菱の顧問故グラバー氏の息子米国に於て
教育を受け帰来リンガー商会に入り重役の
一人として専心其経営に従事す眉目清秀温
雅なる好紳士なり

掲載位置…30頁、3

人名原文表記…倉場富三郎



隈部長吉氏

(長崎市梅ヶ崎町)

長崎中学校鎮西学院を卒業し英語に最も堪能なり、現在の場所に雑貨店を開業したる以来事業日に隆盛傍ら太平洋汽船会社其他の食料品の供給を引受く又商工会議所議員に当選少壮有為の実業家なり

掲載位置…30頁、4



倉塚源太郎氏

(長崎市中川郷)

彼は島根県日野川郡祇原村の人、明治二十六年三月東京高等師範学校博物科卒業各県師範中学校を経て三十九年十月本県師範学校教諭夫より県立五島中学校長に転じ四十二年三月県立長崎高等女学校長に転勤す

掲載位置…30頁、5

人名原文表記…倉塚源太郎



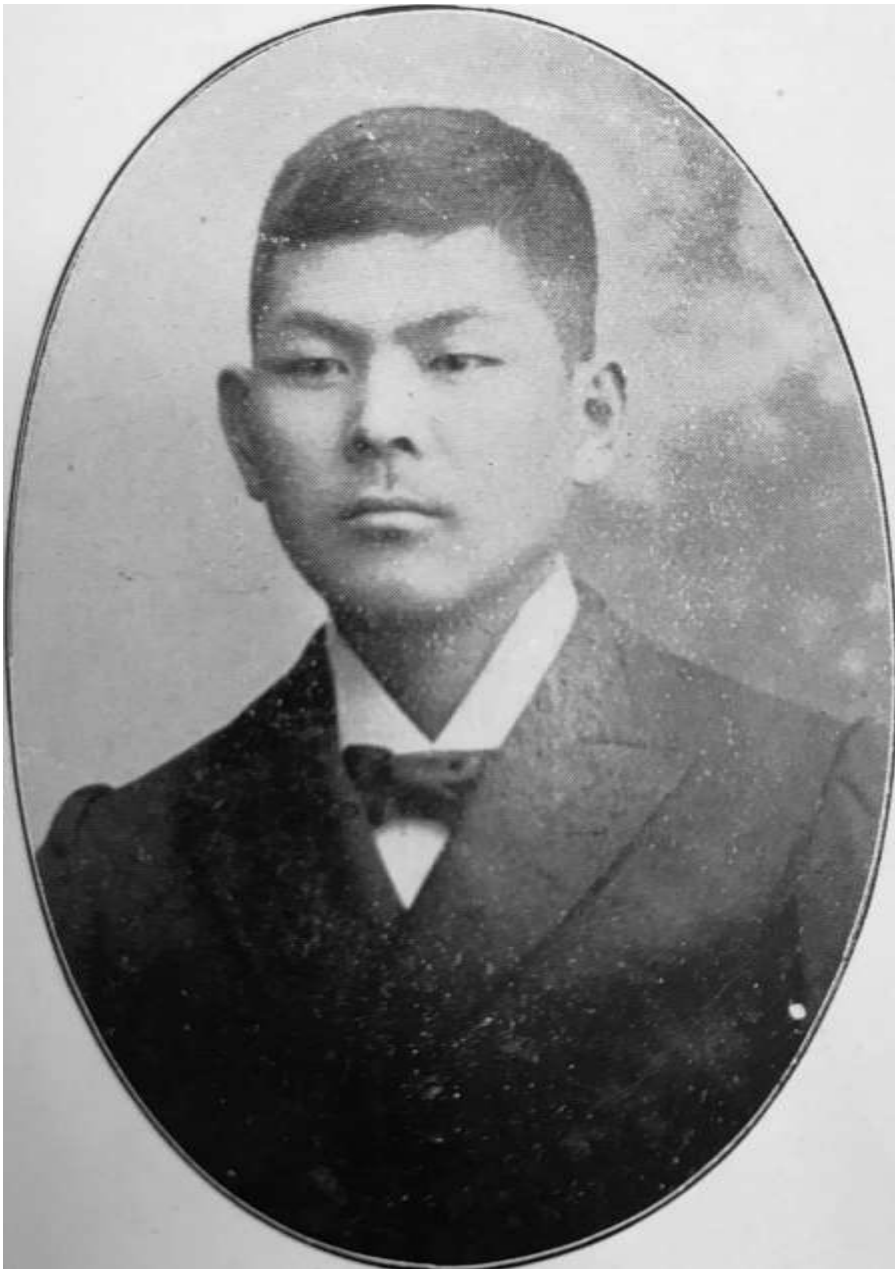
黒瀬秀太郎氏

(長崎市築町)

外国貿易及鯉節販売業を営み別に明治三十八年以來官鹽塩元売捌を指定せらる

掲載位置…30頁、6

人名原文表記…黒瀬秀太郎



油屋製飴工場

長崎市八千代町に在り経営者は油屋健次郎氏にして九州各県に製品を供給す

掲載位置…31頁



右 戸町玉蝉園

長崎市戸町に在り菖蒲の名所にして花時観客多し

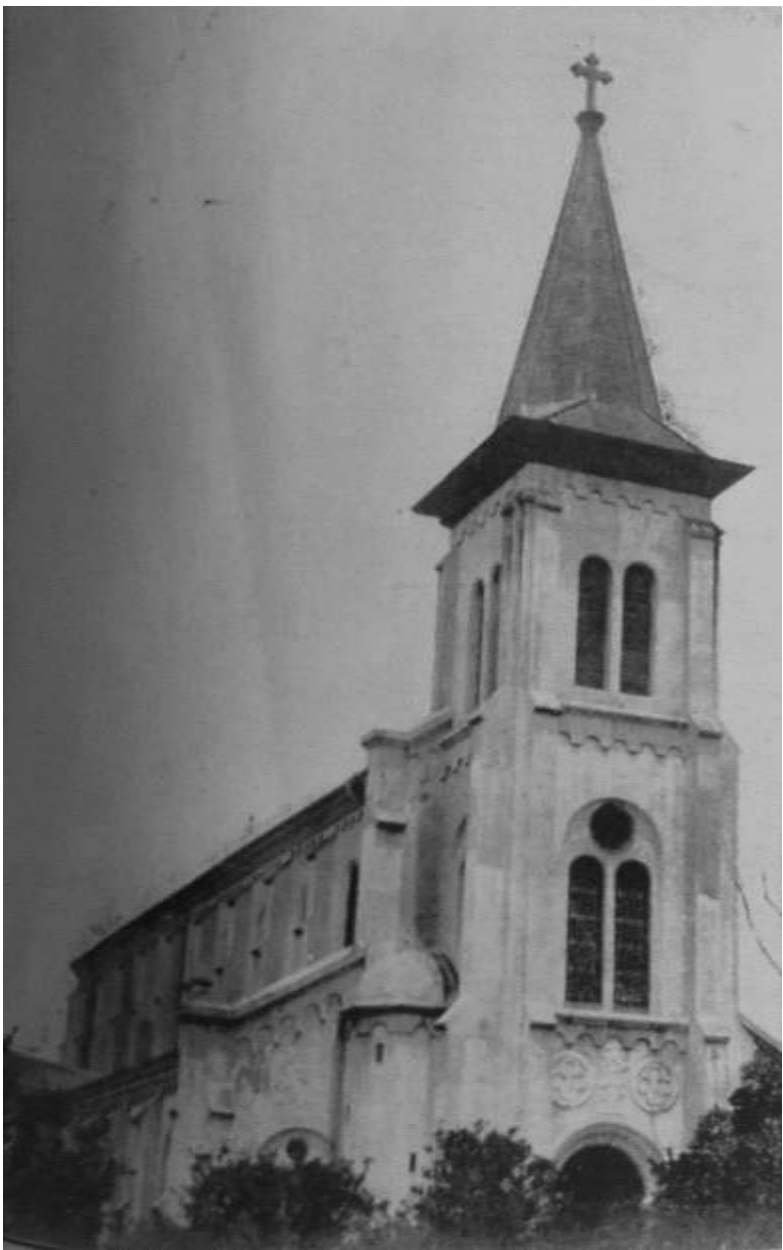
掲載位置…32頁、1



左 西中町 天主堂

長崎市西中町に在り耶蘇旧教の会堂にして
結構極めて壯麗なり

掲載位置… 32頁、2



神代彦次氏

(長崎市興善町)

中央大学出身久しく長崎に在りて弁護士たり
り県会議員、県参事会員、市会議員、土地
収用審査会員、学務委員等に挙げられ、又
我九州日の出新聞社長として政界革新に努
力す

掲載位置…33頁、1

人名原文表記…神代彦次



栗岡利吉氏

(長崎市西浜町)

氏は倉庫業並に呉服太物商たり、きのくに
屋呉服店は即ち氏の経営せるもの、明治四
十三年三月市会議員に選ばれる

掲載位置…33頁・2



久保亀一氏

(長崎市浪ノ平)

十余年間西彼杵郡時津村に造船工場を建設し主として三山近六氏の汽船建造及修繕に従事したりしが一兩年前より長崎市浪ノ平に盛大なる久保鉄工場を起し船舶の修繕及炭鋳其他の用品製造を為しつつあり工場の面積七百余坪長崎市に於ける大工場主の一なり

掲載位置…33頁、3
人名原文表記…久保亀一



山田又三郎氏

(長崎市西山)

佐賀県佐賀郡北川副村字木原に生れ明治二十七年より三十三年三月迄長崎県警部を奉ず三十三年二月北高来郡森山村長に当選六ヶ年在職三十八年五月西彼杵郡茂木村長に当選四十二年五月迄在職四十二年五月西彼杵郡上長崎村長に当選現在に至る

掲載位置…33頁、4



山名熊吉氏

(長崎市出来大工町)

明治二十年三月愛知県師範学校卒業三十四
年三月東京高等師範学校を卒へ、夫より愛
知県第一師範学校附属小学校主事を命ぜら
れ三十六年四月本県長崎高等女学校教諭に
転ぜり

掲載位置…33頁、5



山崎巧文氏

(長崎市榎津町)

多年活版製造業を学び長崎市に來りて巧文
舎を起し活版製造に従事す事業に熱心にし
て技工其他の点に於て模範的工場たらしん
が為め絶へず活動しつつあり

掲載位置…33頁、6



山口武洪氏

(長崎県馬町)

多年司直の府に職を奉じ現に長崎地方裁判
所長として令名あり

掲載位置・・34頁・1



山口直十郎氏

(長崎市出来鍛冶屋町)

明治二十五年の開業にして砂糖、麦粉、缶詰、洋酒類を商ふ、三十七年市会議員となり四十四年長崎商業会議所議員、洋酒組合長等に挙げられ又所得税調査委員となり長崎実業会の総務委員たる事前後二回に及ぶ

掲載位置…34頁、2



山口吉平氏

(長崎市築町)

米穀販売精米業等を営み成功して巨万の富あり資性温厚実業界に重望あり推されて米穀商組合の組長に挙げられ又商業会議所議員市会議員長崎県会委員等に挙げられ公共事業に尽力す

掲載位置…34頁、3

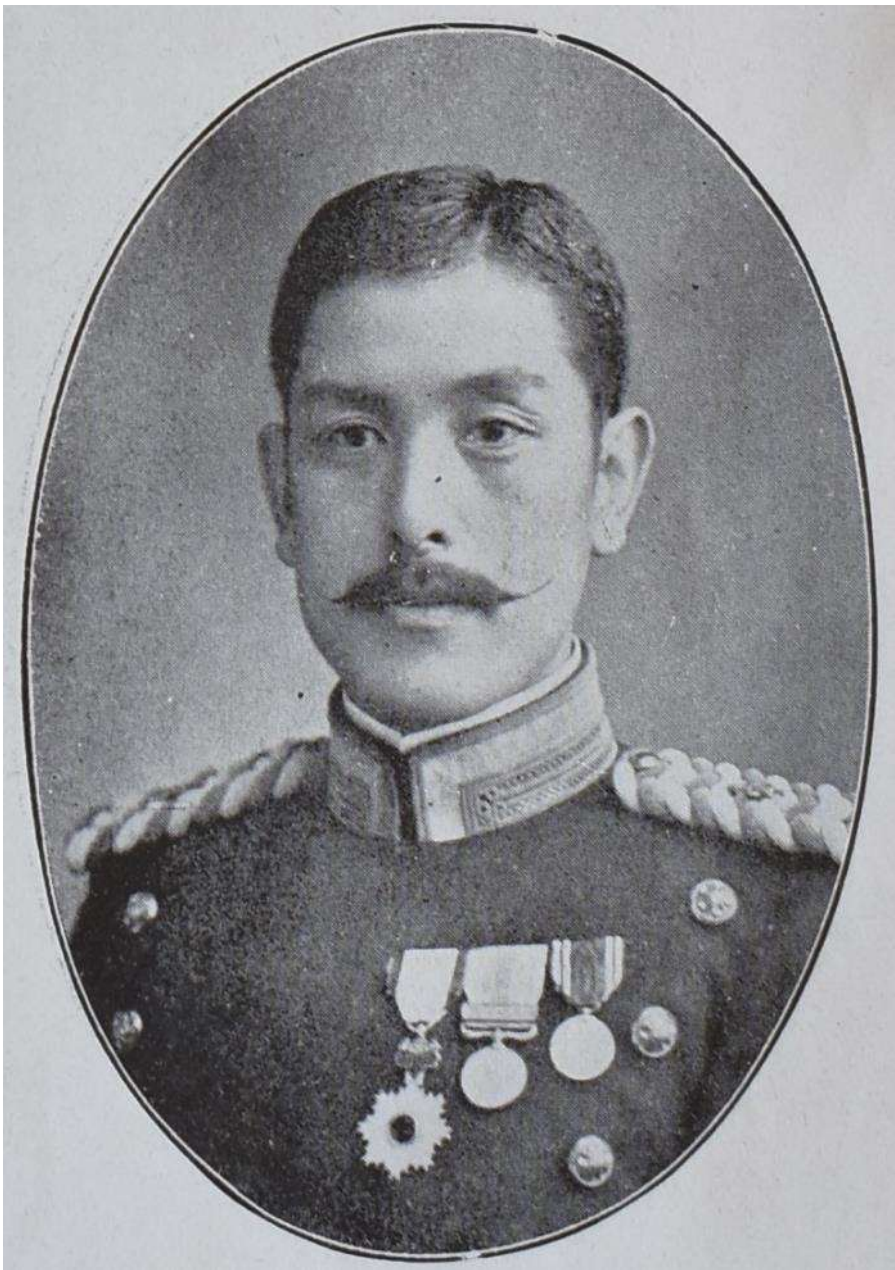


安井由之助氏

(長崎市袋町)

長崎医学専門学校出身志願兵として軍隊に入り予備軍医たり其後長崎市今魚町に医院を開業す

掲載位置…34頁、4



山口茂一郎氏

(長崎市西浜町)

明治二十二年の開業にして、砂糖、外国貿易、荷受問屋、米利豎粉船舶業等を営み本店は筑後の三池にあり、四十二年挙られて長崎商業会議所議員となる

掲載位置…34頁、5



山本喜代七氏

(長崎市今鍛冶屋町)

呉服太物商、大黒町山熊呉服店主の令弟に
して明治四十三年九月今鍛冶屋町に支店開
業

掲載位置…34頁、6



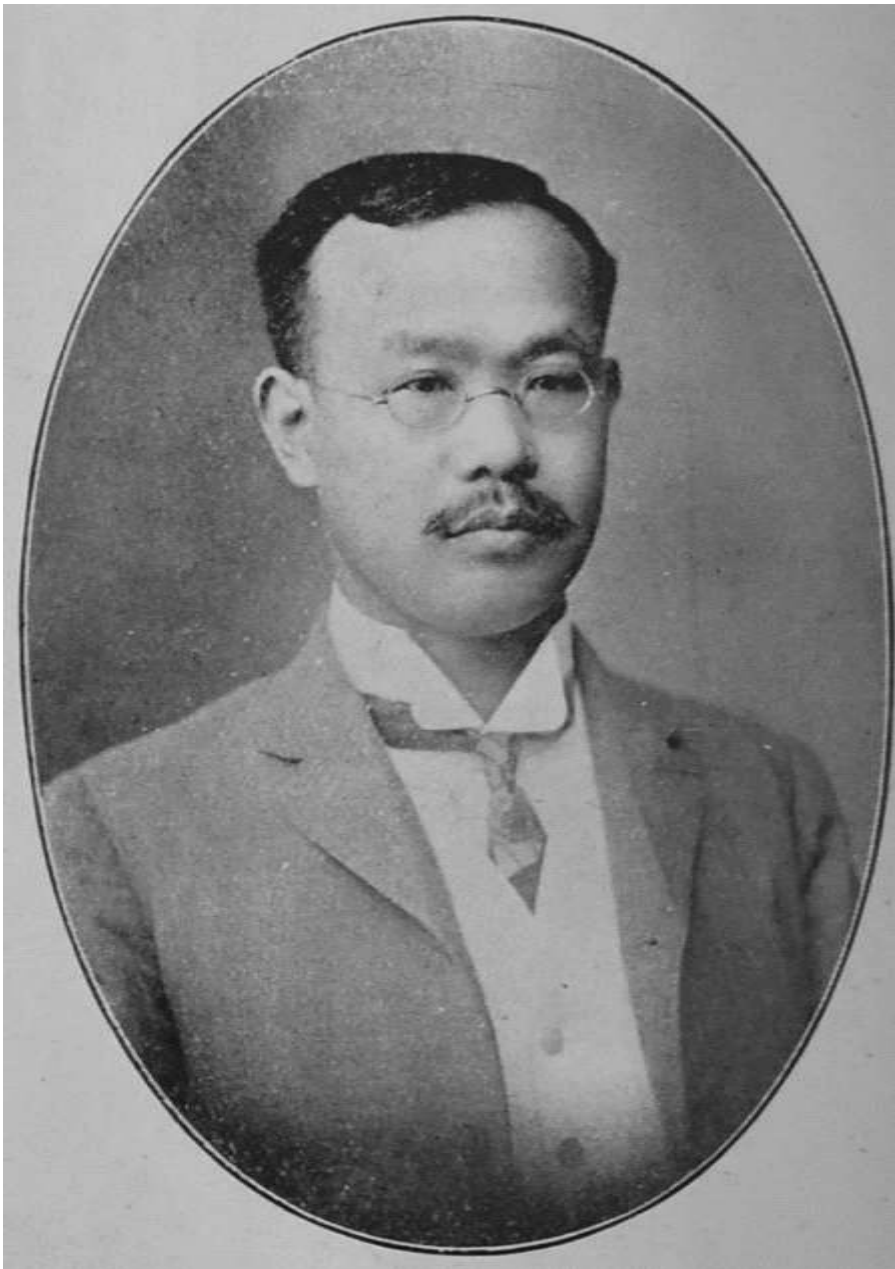
藪内敬之助氏

(長崎市出来大工町)

長崎郵便管理局長、明治三十四年大学政治科撰科を卒へ、同年文官高等試験に合格し翌三十五年より逓信省に出仕次で宇都宮郵便局長となり四十年九月転じて長崎郵便局長に任じ四十三年今の郵便管理局長に進む

掲載位置…35頁、1

人名別表記…藪内敬之助



山口誠治氏

(長崎市大浦)

明治初年より外字新聞に従事し後東友社を起して内外の印刷事業を営み技術精巧を以て名あり傍ら公共事業に尽力し土地の名望高く商業会議所議員市会議員に挙げらる

掲載位置…35頁、2



八坂信助氏

(長崎市出島)

長崎医学専門(門カ)学校卒業後県立長崎
病院眼科に在職して令名あり後十人町に眼
科医を開業したるが更に先年出島町に移
し宏大なる医院を設けたり

掲載位置…35頁、3



松尾孫八氏

(長崎市稲佐)

多年造船及鉄工業に従事し松尾鉄工場の名
洽く世人に知らる近時工場を新築し規模を
拡大し事業益発展しつつあり資性温厚篤実
社会の信望極めて厚し

掲載位置…35頁、4



馬越幸助氏

(長崎市築町)

船具商を営み信用あり又市会議員其他名誉
職に挙げられ公共の為め尽す所あり

掲載位置…35頁・5



松江玖重氏

(長崎市玉江町)

明治三十四年長崎市江戸町に船具店を開業し港湾埋築工事の成るに及び殷賑の地を卜りして現在の所に移転し事業益発展しつつあり

掲載位置・・35頁・6



十八銀行全景

図は長崎市築町に在る十八銀行本店の全景にして長崎県下に於ける最も成効したる事業の一と称せらる漸次資本を増大し今や本店の外大坂佐世保及び朝鮮の各要部に支店を設置し殊に朝鮮に於ては金融界の第一勢力を成せり

掲載位置…36頁



松本庫治氏

(長崎市西浜町)

長崎市の貿易商中の錚々たるもの、長崎市
貿易商組合長、同水産部長、西彼杵郡水産
組合長、長崎県水産組合連合会顧問、市会
議員、市会副議長、長崎商業会議所議員等
の公職にあり

掲載位置…37頁、1



丸毛兼通氏

(長崎市新橋町)

長崎市に於て最も古く開業したる弁護士の一人なり資性堅実最も徳望あり県会議員、市会議員、市参事会員等に挙げられ県市政の爲め貢献せるもの尠少なならず

掲載位置…37頁、2



松田英三氏

(長崎市酒屋町)

氏は実業界の偉人たりし故松田源五郎氏の養子にして、株式会社十八銀行、長崎製氷会社、長崎電灯株式会社、長崎貯蓄銀行の取締役、長崎商業会議所議員等の重職にあり

掲載位置… 37頁、3



松尾静氏

(長崎市勝山町)

南高愛野村の出身長崎師範学校を卒業して
小学教員たりしが其後実業家となり長崎市
勝山町に盛大なる文具の卸小売店を開業せ
り

掲載位置…37頁、4
人名原文表記…松尾静



松尾亀一郎氏

(長崎市万屋町)

長崎医学専門(門カ)学校出身の医師にして
数年前開業万屋町に宏大なる医院を新設
せり

掲載位置…37頁、5

人名原文表記…松尾亀一郎



松田友次郎氏

(長崎市出雲町)

長崎市大浦の資産家にして同地方に人望あ

掲載位置・・37頁・6



松本武助氏

(長崎市平戸町)

長崎市に於て久しく貿易商を営み資産信用
二ながら完備し挙げられて貿易商組合長た
ること多年其他各種の名誉職に選挙せられ
て効績尠からず資性篤実長崎市の元老と仰
がる

掲載位置…38頁、1



松尾恵造氏

(長崎市本五島町)

古くより質店を営み長崎市の資産家なり長崎市会議員長崎商業会議所議員長崎県会議員等に挙げられて公共事業に尽力す漢籍に通じ洒脱の風あり

掲載位置…38頁、2

人名原文表記…松尾恵造



松尾久蔵氏

(長崎市恵美須町)

長崎市選出の前代議士故松尾巳代治氏の養嗣子養父の事業を継承して各種の会社に関係し又商業会議所議員たりし事あり目下病痾の襲ふ所となり諸種の事業関係を断ちて専ら静養中

掲載位置…38頁、3

人名原文表記…松尾九蔵



町田元吉氏

(長崎市東浜町)

明治十三年長崎市に於て洋傘製造販売業を開始し爾来三十余年今日に至りて事業益盛大なり別に同町に分店を設けて帽子販売を為す明治三十九年長崎商業会議所議員に当選せり

掲載位置… 38頁、4



松森恒八氏

(長崎市稲佐郷)

氏は稲佐に消防組の新設せられし当時其の世話掛となり又稲佐郷青年総代たる事十五ヶ年余日清戦役当時は露国軍艦に乗組み二ヶ年余にして下船朝鮮木浦に於て石炭商及び地所買入等を為しつつありき露語は氏の最も得意とする所なり

掲載位置…38頁、5



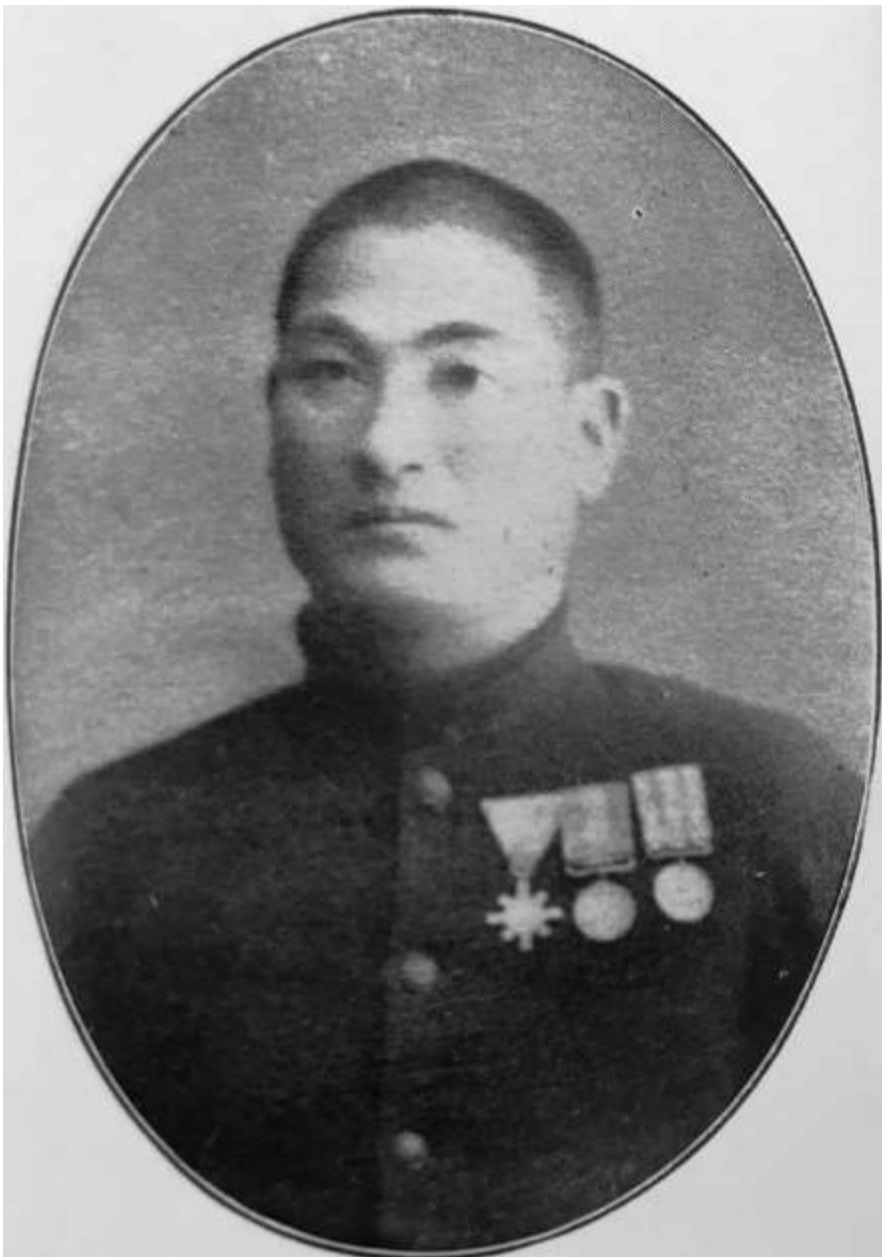
松井猪之吉氏

(長崎市玉江町)

氏は多年回漕業を営みて信用あり

掲載位置…38頁・6

人名原文表記…松井猪之吉



松本梅三郎氏

(長崎市江戸町)

汽船廻漕店喜久屋の主人にして実業界の敏腕家なり傍ら各種の事業に関係し又嘗て市会議員として公共事業に尽力せることあり

掲載位置…39頁、1



眞野浩四郎氏

(長崎市東浜町)

氏は慶應義塾に学び後一年志願兵として歩兵二連隊へ入営三十八年十月歩兵曹長となり日露戦役に召集され四十六連隊補充大隊に入る現今後備役へ編入さる三十九年四月一日日露戦争の勲功に依り勲七等端宝章及年金百五十円を賜る四十二年浜町郵便局長となる

掲載位置…39頁、2

人名別表記…眞野浩四郎



松江梅吉氏

(長崎市西浜町)

船具金物商事業日に隆盛にして取引関係最も広く実業界に其名を知らる又公共事業に尽力し長崎商業会議所議員に挙げらる

掲載位置・・39頁・3



松尾又蔵氏

(長崎市大村町)

明治十二年始めて長崎に一ヶ町一名宛の議員を選出すべく制定せらるるや氏も又た選れて其議員となり又之れが連合町会議員より挙げられて区会議員となり二十二年市会議員に推され爾来四十三年三月迄市会議員たり

掲載位置…39頁、4
人名原文表記…松尾又蔵



松崎惟氏氏

(長崎市岩原郷立山)

氏は熊本県の人、曾て本県警察官となり平戸、島原、大村、佐世保等の各警察署長に歴任し次で警察部衛生課長、警務課長となり警視に昇進して長崎水上警察署長たる事多年辞するや三十九年日本海員掖済会長崎支部幹部を囑託され同時に同会長崎出張所長たり

掲載位置…39頁、5



丸瀬広造氏

(長崎市今魚町)

長崎市に於て最も古くより西洋家具店を開業す事業日に隆盛なり氏は乃父の家業を援けて頗る事業に熱心なり

掲載位置…39頁、6

人名原文表記…丸瀬廣造



藤瀬宗一郎氏

(長崎市東浜町)

先代より長崎市に於て呉服商を営み開業六十年に達す氏は頗る商才あり呉服業者組合長に挙げられ又美術思想に富み精美会を起して其会長たり県会議員市会議員、商業会議所議員等各種の名誉職に挙げられて公共事業に尽力し資産名望手腕共に完備せる好紳士なり

掲載位置…40頁、1
人名原文表記…藤瀬宗一郎



福島福松氏

(長崎市大村町)

旅館福島屋の主人公なり又別に回漕業を営み日本郵船会社支店の専属問屋として頗る信用あり玉江町三丁目に出張所を設けて事務を執れり

掲載位置…40頁、2

人名原文表記…福島福松



藤瀬孝之氏

(長崎市築町)

明治二十七年第五高等学校医学部を卒業し
日清戦争に際し陸軍雇員となり第六師団附
として熊本に在り後露領浦汐斯徳に医術を
開業し居ること三ヶ年にして当地に帰り明
治三十二年以来現在の所に開業して今日に
及べり

掲載位置…40頁、3
人名原文表記…藤瀬孝之



二枝貞治郎氏

(長崎市東浜町)

有名なる鼈甲業者にして技術精巧経営亦た
宜しきを得近時事業を拡張して宏大なる店
舗を新築せり

掲載位置…40頁・4



藤井竹次郎氏

(長崎市樺島町)

氏は山口県吉敷郡吉敷村に生れ明治三十七年長崎市に來りて本県巡査を拝命し四十三年二月十六日樺島町郵便局長拜命現今に至る

掲載位置…40頁、5



福井法含氏

(長崎市新大工町)

氏は明治三十三年十二月長崎郵便電信局通信事務員となり三十五年本官に進み三十八年一月退官同年同月新大工町郵便局長に任命さる

掲載位置…40頁、6
人名原文表記…福井法含



藤本勘太郎氏

(長崎市本籠町)

明治三十年現在の場所に於て歯科医を開業し技術優秀なる為め内外国人の信用を博し患者門前市を為すの盛況なりき氏は東京に於て修業し一時同地に開業して後長崎に来れるが現在の患者は外国人七分日本人三分位の割合なりと

掲載位置…41頁、1



藤村万作氏

(長崎市大浦)

愛媛県出身夙に長崎市に來りて現在の場
所に於て売薬薬種業を営み傍ら公共事業に
尽力して土地の名望厚く嘗て市會議員に挙
げらる

掲載位置…41頁、2
人名原文表記…藤村萬作



古賀春一氏

(長崎市西山)

東京高等商業学校出身、古賀鋳業合資会社の代表社員にして松島炭坑の坑主たり近時推されて長崎電灯会社の社長となり識見手腕共に卓抜せる実業家なり

掲載位置…41頁、3



呉栄一氏

(長崎市高野平)

市立商業学校を卒つて早稲田大学に入り明治二十九年清国に留学する事一年、帰朝後石綿木炭等を商ひ日本アスペスト会社の代理店たり、三菱造船所に用ゐる石綿、木炭等は殆んど氏の一手納入たり

掲載位置…41頁、4
人名原文表記…呉栄一



小曾根均治郎氏

(長崎市小曾根町)

長崎市に於ける素封家にして明治四十四年
三月長崎高等商業学校を卒業せり

掲載位置…41頁、5

人名原文表記…小曾根均治郎



古閑常太郎氏

(長崎市元馬込)

明治二十三年以来長崎市元馬込に於て米穀商を営み資産家なり去る明治四十二年十一月長崎米穀取引所の仲買人となる

掲載位置… 41頁、6



古賀祐一氏

(長崎市小島)

佐賀県の富豪古賀家の一族にして夙に長崎に來りて實業に従事し長崎電灯会社重役を始め各種の会社及事業に関係し實業界に其名を知らる又嘗て永く長崎市の収入役として功あり

掲載位置…42頁、1



古賀十二郎氏

(長崎市西山)

外国語学校を卒業して暫く教鞭を執りたるも家事の都合により帰来し家政整理の傍ら研学に従事す各国の語に通じ近時私財を投じて広く材料を蒐集し歴史の編纂に着手する等篤志家なり

掲載位置…42頁、2



後藤質氏

(長崎市西中町)

氏は久留米の人、会計規則発布と同時に本
県に奉職し爾来引続き本県会計課長たり

掲載位置…42頁、3



後藤一郎氏

(長崎市桜町)

氏は帝国大学理科を卒業したる後中央気象台にて気象の研究をなし四十四年長崎測候所長となりたるが熱心斯道の研究に余念なし

掲載位置…42頁、4



江崎俊助氏

(長崎市築町)

長崎商業学校を卒業して三菱造船所に聘せられ在職多年後辞して今は独立の事業に従事す温厚篤実且つ交際に長ず

掲載位置… 42頁、5



江下与三郎氏

(長崎市玉江町)

筑後福島の人明治十七年長崎に來りて身を
実業界に投じ明治三十二年汽船廻漕業並に
汽船元扱店を開業して現在に及び事業日に
盛大に向ひつつあり

掲載位置…42頁、6

人名原文表記…江下與三郎



江崎栄造氏

(長崎市今魚町)

先代より長崎市に於て鼈甲製造業を営み氏の代に至りて欧州の技術を参酌し古来本邦に知られざりし各種の製品を案出して欧米に輸出したる以来日本製鼈甲の名世界に顕はる近時倫敦に於て開設されたる日英博覧会に出品して名誉大賞を授けられ又我皇室を始め世界各国皇室貴顕の用命を賜はるに至れり

掲載位置…43頁、1
人名原文表記…江崎栄造



寺元理作氏

(長崎市万屋町)

明治三十五年以来長崎市万屋町に於て米穀
商を営み其後長崎米穀取引所の仲買人を兼
業し信用ある商人なり

掲載位置… 43頁、2



浅田新太郎氏

(長崎市新町)

第五高等学校医学部卒業後東京に遊び胃腸病の大家長与博士の胃腸病院に医員となり帰来現在の場所に於て胃腸病専門の医院を開業し以て今日に至る

掲載位置…43頁、3

人名原文表記…浅田新太郎



浅田勝次郎氏

(長崎市大浦)

明治二十一年長崎市大浦に質屋を開業して
現在に至る明治三十四年長崎米穀取引所の
監査役に挙げられ又市会議員、商業会議所
議員等に当選し公共事業に尽力せること尠
からず温厚篤実の実業家なり

掲載位置…43頁、4

人名原文表記…浅田勝次郎



青木伊三郎氏

(長崎市飽ノ浦)

氏は徳島県名東郡下八万村の人明治二十八年長崎市に移住し三菱造船所の用達を営み土工請負を業とす

掲載位置…43頁、5

人名原文表記…青木伊三郎



天本愛儀氏

(長崎市銅座町)

天本「六神丸」の元祖にして全国に販路あり、三十九年長崎育児授産所なるものを創設す主として孤児、貧児を養育するの目的にあり本部を長崎市十人町に置き、支部を大阪東区清水谷に置き自活の道を講ぜしむ

掲載位置…43頁、6



浅田重三郎氏

(長崎市今鍛冶屋町)

明治十一年商法会議所議員、区会議員となり、二十一年長崎電灯会社の発起人となり現に同社の取締役、二十六年長崎商業会議所創立委員となり議員となり常議員となる、二十九年東洋浚渫会社創立発起人となり次で取締役任に任じ、三十年県会議員に挙げられ、三十三年長崎米穀取引所理事長に選ばれ満期退任後監査役となり三十六年市参事会員、三十七年長崎製氷会社監査役三十五カ年間長崎市質商組合取締たりし等公私の経歴極めて多し

掲載位置…44頁、1

人名原文表記…浅田重三郎

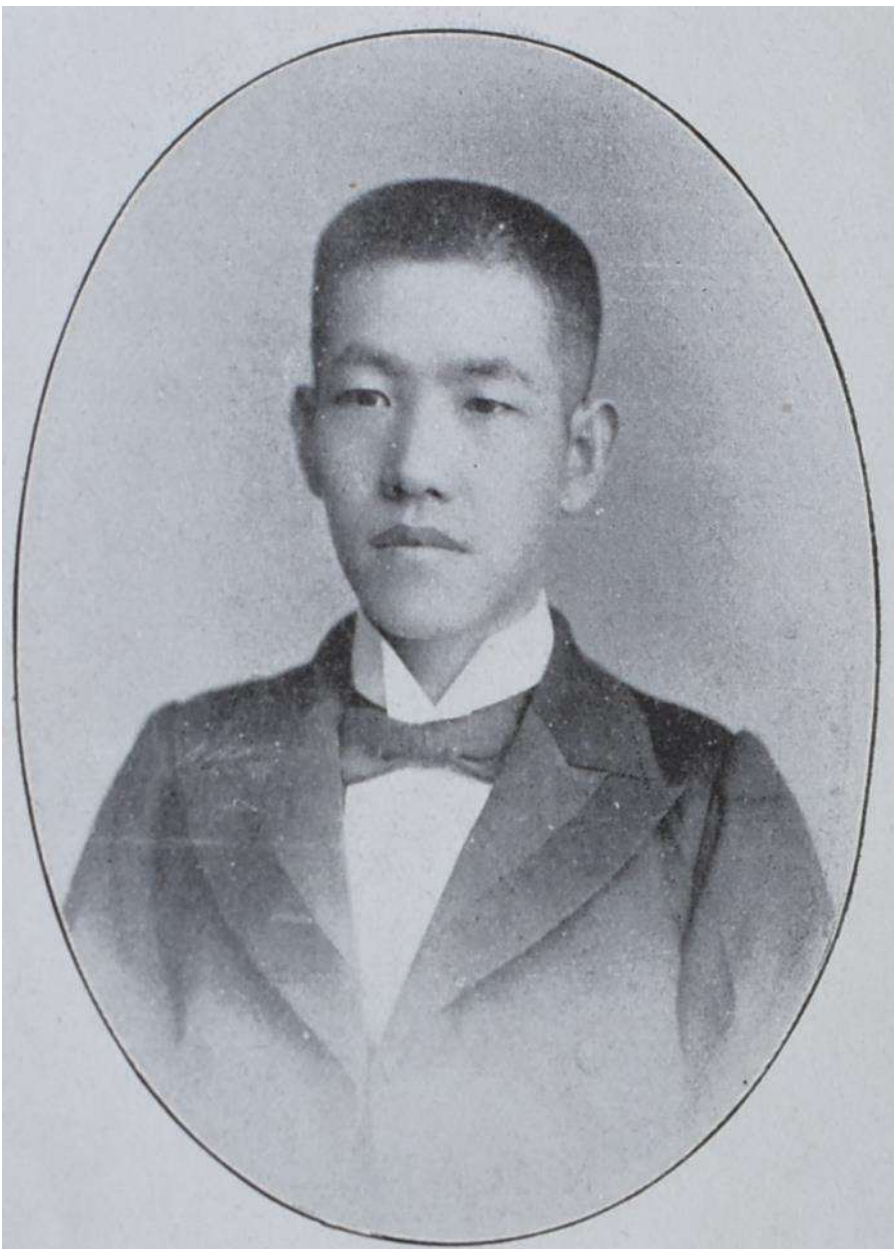


赤瀬保次氏

(長崎市榎津町)

長崎市の資産家なり夙に水産事業に志し松田罐詰製造所を引受けて一手に経営し別に長崎汽船漁業会社及長崎遠洋漁業会社の重役として熱心経営の衝に当りつつあり近時長崎市会議員に挙げらる

掲載位置…44頁、2
人名原文表記…赤瀬保次



芦沢安五郎氏

(長崎市大浦)

山梨県の人明治三十二年長崎に来たり西洋家具類製造業を開く技能頗る巧みにして現今九州一円、海外等に輸出し声価頗る上る、今回新県庁舎の新築成るや庁内は総て同氏により裝飾さる三菱郵船等の室内裝飾等も又た同氏独占たり

掲載位置…44頁、3
人名原文表記…蘆澤安五郎



酒美保造氏

(長崎市本博多町)

長崎外国語学校東京高等商業学校等を卒業して三井鉱山部に入り三池鉱山局に在勤中病気の為め職を辞し其後長崎市に歸りて内美商会を起し石油販売及公債株式現物問屋を経営す十字火止石油は氏の発明にかかり頗る好評あり

掲載位置…44頁、4



佐々木直政氏

(長崎市本古川町)

米穀、石油等を商ふ日本石油株式会社長崎代理店にして長崎米穀商同業組合評議員、地方議員、長崎真宗青年崇徳会副会長等にして長崎実業会総務委員たり

掲載位置…44頁、5



佐々木熊吉氏

(長崎市東浜町)

明治二十五年長崎市東浜町に時計商を開店
したる以来事業愈々盛大となり其名を知ら
るるに至れり

掲載位置…44頁、6



桜井三之助氏

(長崎市本興善町)

医科大学の出身長崎医学専門学校の教授
立長崎病院婦人科部長等に任ぜられ又独逸
に留学し医学博士の称号を授けられる婦人
病科の大家なり

掲載位置…45頁、1

人名原文表記…桜井三之助



沢山精八郎氏

(長崎市大浦)

大村の出身有名なる活動家にして鉱業航海業漁業其他各種の事業に成功し唐津、門司、釜山、元山等に支店を設け多数の人材を用いて事業の発展を図りつつあり精力絶倫資力豊富真に文明的実業家なり

掲載位置…45頁、2

人名原文表記…澤山精八郎



佐藤辰十郎氏

(長崎市西泊郷)

長崎市西泊郷の資産家村制以来公共事業に
尽力し長崎市と合併後屢市会議員に挙げら
れ温厚の長者なり

掲載位置…45頁、3



佐藤峰吉氏

(長崎市榎津町)

氏は薬種業なり、明治二十六年長崎県売薬業同盟会を組織するや氏は推されて其副幹事長となり三十二年長崎実業会の副会長となり三十四年市会議員に挙げらる

掲載位置…45頁、4



佐々木朴氏

(長崎市八坂町)

明治三十二年の開業医にして内科、外科を
兼ね、日清、日露の二大戦役には軍医とし
て出征し其功尠からず

掲載位置…45頁、5



齋藤巖氏

(長崎市酒屋町)

明治大学卒業後優等の成績を以て弁護士試験に及第し現在の場所に於て弁護士を開業す頭脳明晰弁論及文章に長ず

掲載位置…45頁、6

人名原文表記…齋藤巖



北島婦人科医院

長崎市本紺屋町に在り院長は北島英夫氏に
して多数の入院患者を収容す

掲載位置…46頁



齋藤繁八氏

(長崎市西山)

氏は山梨県南巨摩郡増穂村の人明治三十六年三月東京高等商業学校卒業同年九月北米合衆国エクスチェンブル保険会社に入り三十七年一月退職同年四月甲府商業学校に奉職四十一年十一月長崎商業学校教諭に転じ四十二年六月同校長に栄進せり

掲載位置…47頁、1
人名原文表記…齋藤繁八



佐藤光重氏

(長崎市外浦町)

三十年第五高等学校医学部を卒へ三十一年より四十二年迄県立長崎病院に奉職し内科一部長、二部長となり医学専門学校講師嘱托、第一回産婆試験委員等に任じ辞して渡欧準備中家事の都合上私立病院を開き内科医専門として開業せり

掲載位置…47頁、2



佐々木庄吉氏

(長崎市稲佐)

多年長崎県に警察官を奉職したるが先年辞職後実業界に入り東京西沢商会の長崎出張所主任として海外貿易に従事し大に敏腕を揮ひつつあり

掲載位置…47頁、3



北野孝治氏

(長崎市八百屋町)

多年勝山高等小学校長として令名あり明治
四十四年奏任待遇に進めらる

掲載位置…47頁、4



城戸兼治氏

(長崎市木下町)

明治三十年長崎市に於て煙草販売業を開始し後専売法の実施と共に長崎西部煙草合名会社を組織して業務執行社員となり又別に永野酒美両氏と共に内美商社を起して内外石油の販売に従事し傍ら長崎果菜株式会社
の監査役たり

掲載位置…47頁、5



北村千代松氏

(長崎市新橋町)

長崎中学卒業後英語を学び長崎税関に奉職し後長崎プレスの記事となり米国補給廠の長崎市に置かるるや招聘せられて米国陸軍属となり以て今日に至る氏は英語に堪能にして英文は其最も得意とする所なり

掲載位置…47頁、6



北川信従氏

(長崎市高野平)

高知県の出身法律を学び司直の府に職を奉
ずるもの多年明治四十年長崎地方裁判所検
事正を辞じ(「し」カ)て長崎市長となり
鋭意財政の整理を図る平素辺幅を飾らず磊
落の士なり

掲載位置…48頁、1
人名原文表記…北川信従



北島英夫氏

(長崎市本紺屋町)

氏は佐賀県の人、夙に婦人科専門医を以て其名嘖々たり明治三十二年十一月長崎医学専門学校の出身にして業を卒るや県立長崎病院婦人科部長となり在勤十年、辞して婦人科専門の医院を開く、本紺屋町、中島川下流に沿ふて建築されたる宏壮なる三階建は氏の医院なり

掲載位置…48頁、2



湯川岩太郎氏

(長崎市本興善町)

南松浦郡出身漁業に成効して巨富を獲又傍
ら長崎米穀取引所の理事長となりて其経営
に従事す氏は極めて磊落の人にして且つ事
業の才に富む

掲載位置…48頁、3



三浦藤一郎氏

(長崎市今町)

長崎市に於ける一流の旅館みどり屋の主人なり少壮時代永く露領浦汐地方に在住し归来専ら旅館の経営に従事す眺望の絶佳なると設備の高雅なるとは同旅館の特色なり傍ら築町青物市場合資会社の代表社員として市場の経営を為しつつあり

掲載位置…48頁・4



右田耕一氏

(長崎市桜町)

氏は長崎市の弁護士、去る二十四年の開業、
明治二十五年明治大学出身の俊才なり

掲載位置・・48頁・5



光安常重氏

(長崎市船大工町)

氏は明治十五年頃より十九年迄大阪の齒科
医西村氏に就き齒科医術を修業し明治二十
年長崎市に來りて開業す頗る好評なり

掲載位置…48頁、6



宮川弥十郎氏

(長崎市今博多町)

海産物及酒類商を営む明治三十一年より三十七年迄市会議員たり、四十二年六月市参事会員に挙げられ嘗て長崎商業会議所議員たり

掲載位置…49頁、1
人名原文表記…宮川彌十郎

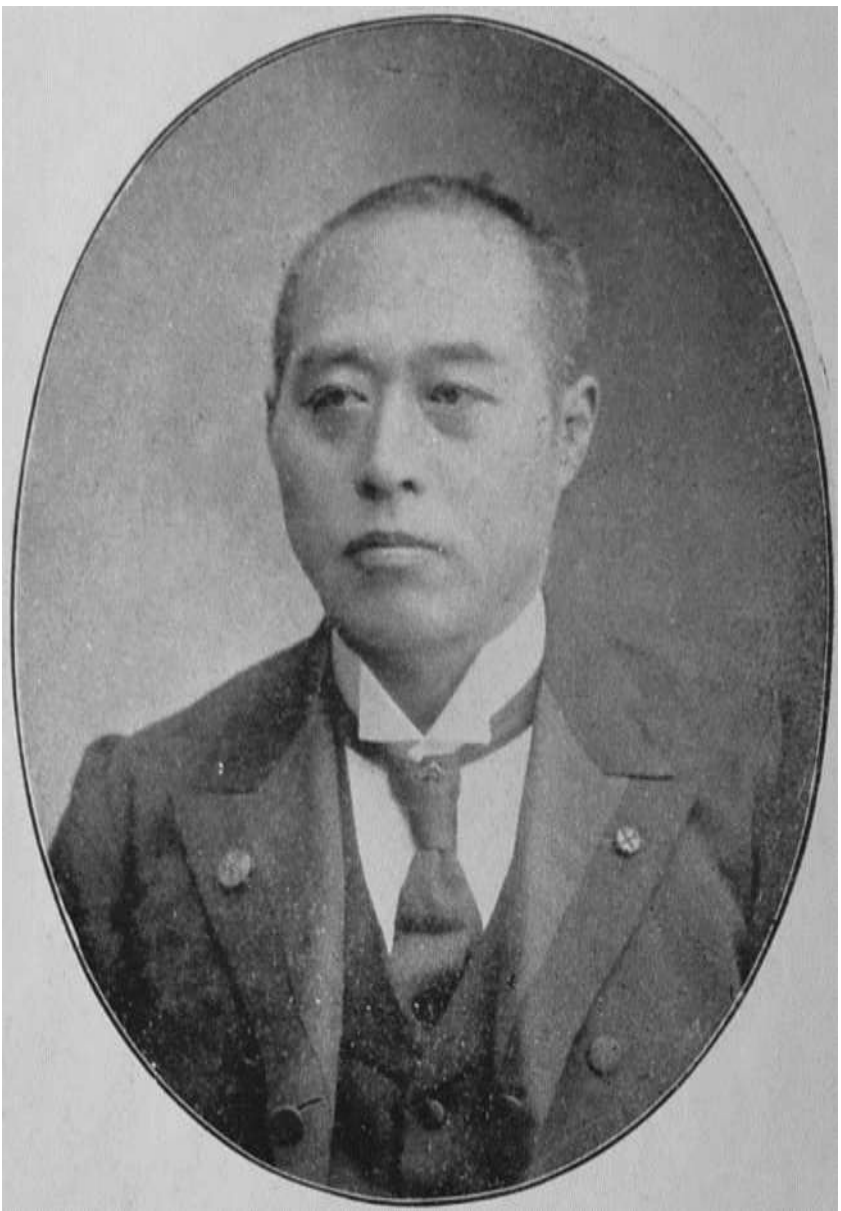


溝田文吉氏

(長崎市築町)

筑後の人明治二十五年始めて茶商となり同年長崎県茶業組合連合会長に推され、二十九年茶業組合中央会議所議員となり同年長崎県連合茶業組合事務長、九州製茶輸出株式会社専務取締役、日清貿易合資会社社長、長崎商業会議所議員、市会議員等の名誉職にあり、露領浦汐に支店を有す

掲載位置…49頁、2



篠有邦氏

(長崎市新大工町)

氏は茨城県水戸市に生れ明治三十九年七月
東京農科大学卒業同年十一月佐賀県立農学
校教頭四十二年三月岐阜県農林学校に転じ
四十四年三月より十月迄同県農会技師とな
り四十四年十月二十四日本県農事試験場長
たり四十五年三月長崎県農務課長に栄転す

掲載位置…49頁、3



島津良知氏

(長崎市豊後町)

東彼杵郡の人、明治十八年、年二十五歳にして県会議員となり県参事会員、副議長として長崎県会に議席を有する事十八ヶ年、三十五年より四十一年迄衆議院議員となり、農工銀行、東洋捕鯨会社、九州汽船会社等の重役たり

掲載位置…49頁、4



志賀長三郎氏

(長崎市江戸町)

長崎市に於て古くより板ガラスの輸入商を
営み取引非常に広く事業愈よ盛大なり

掲載位置・・49頁・5



城島勝助氏

(長崎市江戸町)

佐賀県伊万里の出身夙に長崎市に來りて実
業界に入り海外貿易に従事し清国向海産物
輸出に成功して信用を博し敏腕の聞あり

掲載位置…49頁、6



城野威臣氏

(長崎市西山)

政治界に事業界に最も活動せる人にして現に長崎日日新聞社長なり嘗て長崎市会議員長崎県会議長として県市政の為に尽力し又会社を起し或は重役となりて経営せるもの尠からず

掲載位置…50頁、1



島田耕一氏

(長崎市東上町)

長崎市の出生明治十二年医科大学薬学科を卒業し其後三十六年長崎医学専門学校教授に任ぜられ爾来十年間在職今日に至る明治四十年十一月薬学博士の称号を授けられ正五位に叙し勲四等を授けらる

掲載位置…50頁、2



品川百樹氏

(長崎市十人町)

明治十二年第五高等学校医学部を卒へ二十四年医院を開く、二十七年浦上山里村貧民施療及施薬等の為め時の大森長崎県知事、山里村役場等より賞状を受く三十六年長崎市医会理事に推され、三十七八年の役に軍医として出征したる功により勲六等に叙らる、鎮西学院、梅ヶ崎署等の嘱托医、四十三年市会議員に常選、伝染病予防委員の名誉職等にあり

掲載位置…50頁、3



島貢介氏

(長崎市出来大工町)

嘗て山口県に郡長を奉職し日本三郡長の一
として其敏腕治績を歌はれ後朝鮮に赴きて
元山居留民団長となり北川信従氏長崎市長
となるや其懇請により長崎市助役となる事
務の才に長じ精勤家なり

掲載位置…50頁、4



執行常蔵氏

(長崎市引地町)

北高来郡の出身長崎市東山学院及外国語学校等を卒業し一時三菱造船所に入り三ヶ年勤続後辞職して米国領事館の訳官となり勤続十二年に及ぶ英語に堪能の人なり

掲載位置…50頁、5

人名原文表記…執行常蔵



島宇作氏

(長崎市西浜町)

佐賀県の人多年米穀定期取引の事業に従事し明治四十三年二月長崎市に來りて長崎米穀取引所の仲買人となる小壮実業家なり

掲載位置…50頁、6



長崎米穀取引所

長崎市西浜町に在り理事長は湯川岩太郎氏
なり

掲載位置・・51頁



明治生命保険会社長崎支店

長崎市大村町に在り建築費二十万円全部花崗石造にして長崎県庁舎に亞ぎ長崎市の美觀たり

掲載位置・・52頁



志賀親朋氏

(住宅長崎市稻佐)

維新前幼少にして露語を研究し日露の折衝
起こるや召されて通辞の任に当り露都に樺
太境界問題協商の爲め小出伊豆守に陪従せ
る等当時唯一の露語学者として幕末外交に
功績あり維新後外務省に奉職し公使館訳官
として露都に留まるもの多年退官後長崎市
に歸りて専ら公共の爲めに尽す所あり現に
日露協会長崎支部長たり

掲載位置…53頁、1



重藤鶴太郎氏

(長崎市引地町)

明治二十四年明治法律学校の出身、二十七年長崎にて弁護士となり三十七年三月長崎県会議員に挙げられて次で四十年六月長崎市参事会員に推さる

掲載位置…53頁、2



白石弥市氏

(長崎市梅ヶ崎町)

明治十年臘乾製造を開始して以来以て今日迄其業を営む、米国太平洋汽船の食料品用達をなせり

掲載位置…53頁、3

人名原文表記…白石彌市



島田実然氏

(長崎市堀町)

北高来郡の出身長崎市に來りて実業に従事す

掲載位置…53頁、4
人名別表記…島田實然

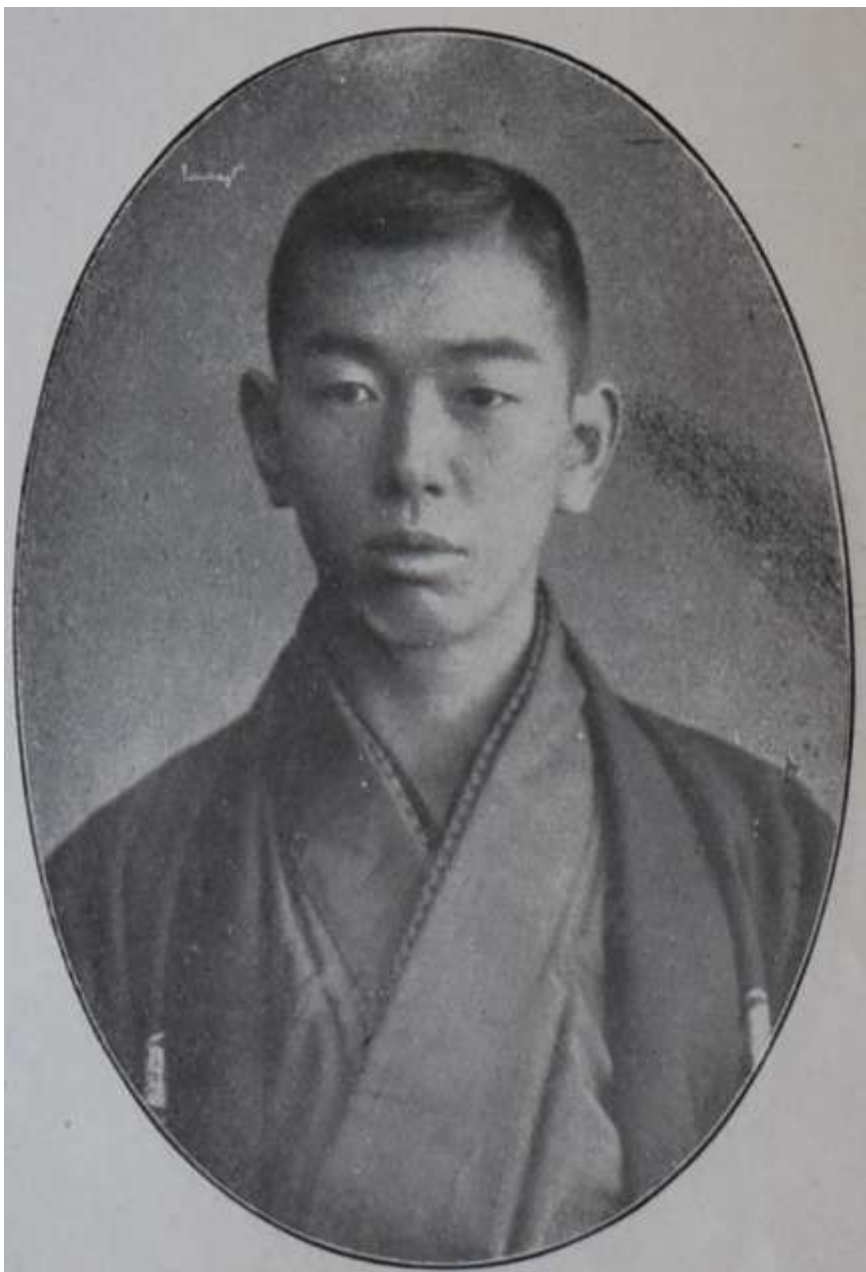


平松喜三郎氏

(長崎市浦五島町)

先代の跡を継ぎて貿易商を営み年々多額の
鮑殻を英国倫敦に輸出し事業益盛大なり資
性堅実商才に富み少壮有為の実業家なり

掲載位置…53頁、5



平松音吉氏

(長崎市万屋町)

佐賀蓮池の人、明治二十一年長崎に来たり
清酒卸商を営み店運隆として今日に至る、
成功者の一人なり

掲載位置…53頁、6



平田亀之助氏

(長崎市西浜町)

明治二十四年早稲田大学英語専修科卒業同
二十八年同大学法律科を卒業後直ちに実業
界に入り山下コークス製造所製品の販売東
京桜組代理店太陽商会等を経営し又日清生
命保険会社に入りて九州支社監督を命ぜら
れ敏腕の聞あり前途ある少壮実業家なり

掲載位置…54頁、1

人名原文表記…平田亀之助



広津藤吉氏

(長崎市十人町)

氏は大分県中津町の人明治二十二年私立東山学院高等科英語神学部九ヶ年の課程を卒業佐賀其他に牧師たりしが三十四年九月私立梅ヶ崎女学校校長となりて今日に至る

掲載位置…54頁、2

人名原文表記…廣津藤吉



平田犀助氏

(長崎市浪ノ平町)

明治十六年以來長崎市に於て石炭商を開業し爾來今日に及べり其他炭坑鉦山等を経営し其名実業界に顕はる

掲載位置…54頁、3



森山三太郎氏

(長崎市出来鍛冶屋町)

筑後の人代々醤油醸造業を営む氏は明治十五年長崎市に來りて同業を開始し爾來日に隆盛にして其醸造にかかる醤油は長崎市同附近は勿論遠く満洲朝鮮台湾浦汐等へも輸出す又三十二年以來八年間商業會議所議員に挙げられ長崎自由倉庫の創立に尽力し其功尠少ならず

掲載位置…54頁、4



諸熊武治氏

(長崎市西浜町)

氏は北高来郡諫早町の人明治四十三年十一月内務省医術開業試験に合格四十四年二月前記肩書地に開業す

掲載位置…54頁、5



森友三郎氏

(長崎市銅座町)

質屋業にして先代より継続せるもの、明治二十八年中央大学出身、四十年一月以来の長崎商業会議所議員にして四十三年市会議員となる、別に長崎質屋業組合評議員たり

掲載位置…54頁、6



森喜智郎氏

(長崎市西浜町)

信用ある実業家にして嘗て長崎商業会議所
会頭に挙げられたることあり温厚篤実学殖
あり公共の為に尽力せる所亦尠少ならず

掲載位置… 55頁、1



盛藤吉氏

(長崎市梅ヶ崎町)

氏は貿易両替商にして明治八年の開業、長崎商業会議所開設当時より同所議員となり任期二期八ヶ年、三十六年市会議員となり四十年退任

掲載位置… 55頁、2



森伊三次氏

(長崎市館内)

貸家業を主とす、明治四十年推されて市会議員となり同四十四年又た県会議員となる、屈指の資産家なり

掲載位置・・55頁・3



森慶次郎氏

(長崎市大浦)

古くより質店を営み土地の名望家なり度々
長崎市会議員に挙げられて公共事業に尽力
す温厚篤実の好紳士なり

掲載位置… 55頁、4



森山春三氏

(長崎市材木町)

明治三十八年東京医学校卒業後故長与博士に就て胃腸病を研究し又廣田博士入澤博士等に就て小児科内科等を修め明治四十四年帰郷材木町に医院を開業し小児科内科の専門診療をなす

掲載位置…55頁、5



精洋亭主人

(長崎市西浜町)

長崎の西洋料理店精洋亭主人金子氏が奮闘の結果今日の隆盛を致したることは洽く人の知る所今や福岡市に大規模の支店を開設し愈よ成効の域に進みつつあり

掲載位置…55頁・6



鈴木小太郎氏

(長崎市出来大工町)

農商務省水産講習所を卒業して長崎県技師
に任ぜられ現に水産課長たり

掲載位置…56頁、1



杉野清次氏

(長崎市今町)

佐賀県の人明治二十三年十二月公証人となり爾来今日に至る公証役場は万才町に在り、市会議員たる事二期今尚任中

掲載位置…56頁、2

人名原文表記…杉野清次



杉山種夫氏

(長崎市馬町)

鉱山業にして北松浦郡相の浦炭坑々主たり
明治四十三年市会議員となり、四十四年五
月徳用引割り及び押麦製造法の専売特許を
受く、日露戦役出征の功により勲六等を賜
ふ

掲載位置…56頁、3



鈴木清次郎氏

(長崎市築町)

代々薬種業にして創業百五十余年に達し氏は四代目たり明治三十九年浦五島町より転居す三光堂と称す別に医用薬品医療諸器械、工業用薬品、外科清毒用材料、有効諸売薬、絵具染料品、洋酒類、度量衡器類等を商ふ

掲載位置…56頁、4

人名原文表記…鈴木清次郎



須甲理喜氏

(長崎市西山)

氏は福井県大野郡糸城村の人明治四十年三月東京高等師範学校地理歴史科卒業同年四月より満一ケ年間京都市第四高等小学校訓導四十一年四月兵庫県姫路高等女学校教諭四十三年五月本県女子師範学校附属小学校主事に任ぜらる

掲載位置・・56頁・5



杉浦恒太郎氏

(長崎市西山)

明治三十三年長崎鎮西学院を卒業して官庁
会社に奉職せるもの多年其後実業界に投じ
て各種の事業を経営しつつあり

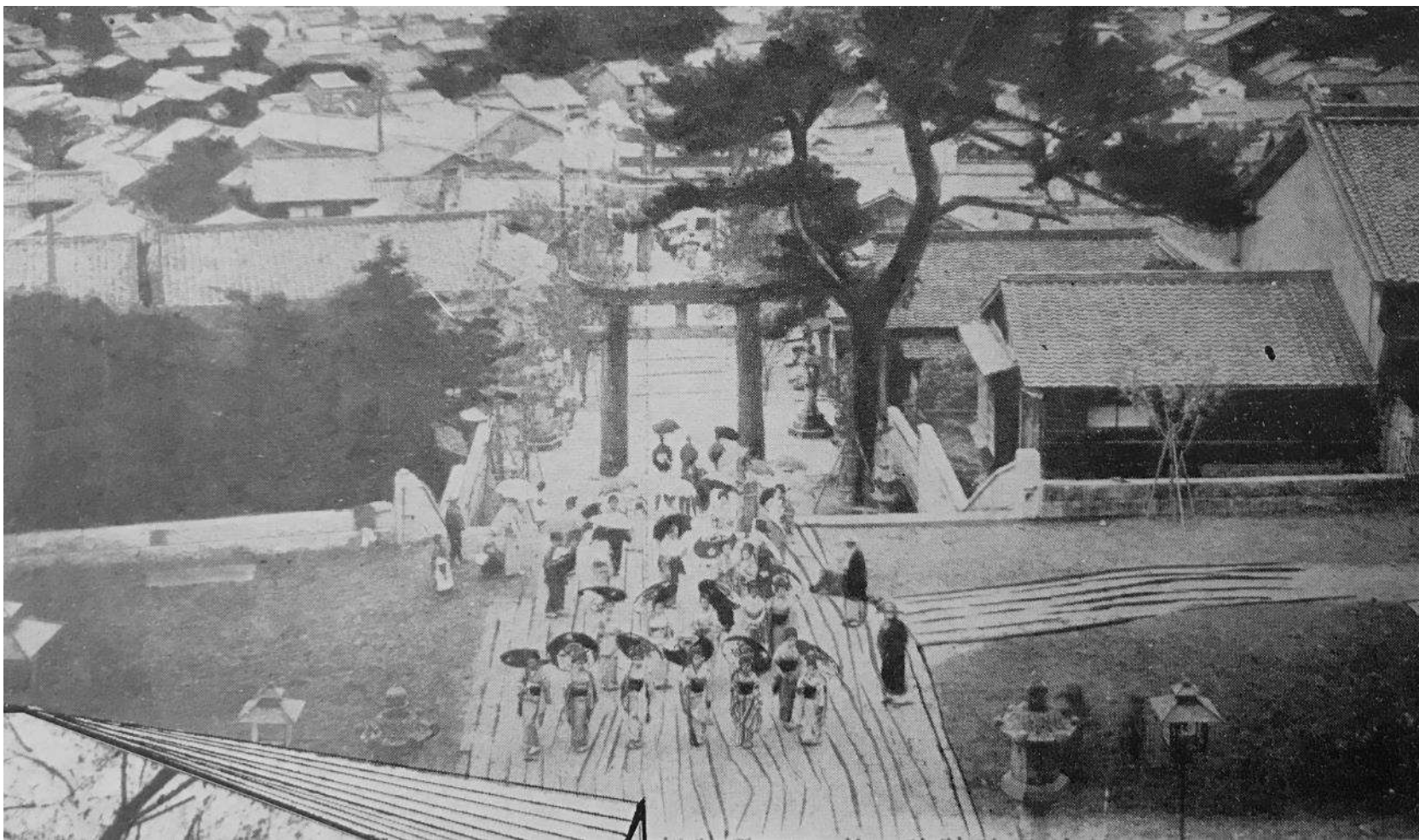
掲載位置・・56頁・6



諏訪神社踊馬場

長崎市諏訪神社境内にして毎年供日祭礼に
奉納神事踊の場所なり

掲載位置・・57頁・1



中川の桜

長崎市中川付近の桜毎年花時観客蝟集し夜
桜は一段の眺にして雑鬧を極む

掲載位置・・57頁・2



『長崎県千名鑑』 解題（1）

『長崎県千名鑑』は大正元年（1912）10月に九州日の出新聞社によって刊行された長崎県内を対象とする紳士録である。編纂には九州日の出新聞社の副社長を務めていた黒木治三、同社記者の合川不染、土屋虎市、徳永健一、副島嘉六の5人が携わった（『長崎県千名鑑』177頁）。

明治44年（1911）5月、3代目長崎県庁舎の落成を記念して『長崎県千名鑑』の編纂が決まると、九州日の出新聞社では黒木を中心に、長崎県内を歴訪して掲載対象者の選定及び顔写真の収集に取り掛かった。

しかしながら、同書の「自序」によると編纂開始直後から黒木たちは総勢1,000人にも及ぶ顔写真の収集という困難に直面したという。掲載対象者の中には顔写真が未撮影である者や、撮影済であったとしても集合写真などの画質が粗い写真しか残っていない者が多く存在しており、写真技師を派遣しながらの作業を余儀なくされたためである。最終的に写真技師の個別派遣による撮影では間に合わず、やむなく集合写真から一部の顔写真を引用する方策を講じることとなったが、それでもなお収集した顔写真は800枚余りにとどまった。

このように編纂は難航を極めたものの、黒木たちは1年5か月ほどの期間を費やしてどうにか『長崎県千名鑑』を刊行するに至った。

このころ、日本国内で刊行されていた紳士録としては、明治22年（1889）から隔年で刊行されていた交詢社の『日本紳士録』（長崎県ノ部）や、昭和7年（1932）に東京商業興信所が刊行した『長崎県人物事業大鑑』などが存在する。しかしながら『長崎県千名鑑』のように800人を超える長崎県内の名士を取り上げて、顔写真に略歴を兼ね備えて掲載した紳士録は他に類がなく、明治時代に活躍した長崎県内の名士層の動向を知る上で欠かせない情報を数多く収録している点に特長がある。

『長崎県千名鑑』 解題（２）

その上で『長崎県千名鑑』が成立するまでの経緯を整理した上で同書の書誌情報を紹介しておきたい。

方寸は縦長22.0cm、横長30.0cm。全178頁であるが、頁番号は片面のみ割り振られている。

体裁としては見開きで最大6人の略歴と顔写真を対比して参照できる構成となっている。

掲載対象者の職業は政治家、官僚、実業家、医師、軍人、教員が多くを占める。また、長崎県内各地の商店や工場、神社仏閣、史跡、名勝の写真と解説を挿入した頁も存在する。

人物の掲載順は安藤謙介長崎県知事以下の長崎県庁吏員（11人）から始まって長崎市（264人）、佐世保市（48人）、西彼杵郡（62人）、東彼杵郡（40人）、北高来郡（54人）、南高来郡（159人）、北松浦郡（87人）、南松浦郡（46人）、壱岐郡（36人）、対馬（35人）と続いており、それぞれの居住地ごとにイロハ順で配列されている。合算すると実際の掲載人数は842人（177頁の集合写真5人を除く）である。

本学新長崎学研究センターでは令和3年9月、貴重資料として『長崎県千名鑑』を購入した。現物は一部紙面に破れ、折れ、シミが存在するものの、保存状態は比較的良好である。

その上で、令和4年4月から収集した貴重資料の研究活用を推進する目的のもと「G a i d a iプロジェクト」のプロジェクトチームの一つ「長崎の歴史・文化魅力発見プロジェクト」のメンバーが『長崎県千名鑑』の翻刻作業に参加することになった。

プロジェクトメンバーによる取り組みが新長崎学研究を推進する一助となれば幸いである。

藤本健太郎（国際コミュニケーション学科講師）